



Web Fairy Paradise

第44号

今月のフェアリー詰将棋

- ・ 第 39、40 回 WFP フェアリー作品展
- ・ 第 52 回 推理将棋出題

結果発表

- ・ 第 39 回 WFP フェアリー作品展
- ・ 第 2 回 短編コンクール
- ・ 第 51 回 推理将棋出題
- ・ Fairy of the Forest#30
- ・ ネコネコ鮮の紹介

読み物

- ・ ネコ鮮の紹介(小林看空)
- ・ 玉の全格巡り(神無太郎)
- ・ Fairy TopIX2011 お気に入り投票要項
- ・ おしらせ (神無七郎)



2012/2

はじめに

数日前に今年初めて雪が積りました。広島時代には年に何回かは車のタイヤにチェーンを巻いたものでしたが、新居浜に来てからは温暖化の影響もあってか年に1回くらいしか雪が積りません。雪害で大変な地域もあるので不謹慎な感想かもしれませんが、もう少しは降って冬を感じさせて欲しいと思っています。まだまだ心は子供と同じでしょうか。



写真は初めての雪にビックリする愛犬 JII 君

さて今月号は、WFP 作品展の問題数も多かったのと短コンの発表も重なってか56ページものボリュームになりました。読み応え満載と言えるでしょう。

また Fairy TopIX2011 のお気に入り投票の時期にもなりました。要項を発表していますのでお読み頂きぜひともお気に入り投票をお願いします。お気軽に投票いただければうれしいです。今月末までには候補作一覧 PDF を作成しますのでそちらを見ていただいてからで結構です。また OFM のホームページには七郎さんが担当になられてからの作品をブラウザ上で動かして鑑賞することを目的とした「WFP 作品展鑑賞室」のコンテンツがありますのでそちらで見ることも可能です。

たくさんのお票でフェアリー詰将棋界をぜひとも盛り上げていただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

【募集】

作品

フェアリー作品、PG、推理将棋はそれぞれの投稿先へ投稿下さい。

読み物

フェアリー詰将棋に関するものに限らず日常のことも研究物でも4コマ漫画からパロディ、イラスト、マイベスト10、自己紹介、何でもOKです。

感想

第44号の感想、今後の要望、ご意見等なんでも結構です。是非メールにて私まで

皆様の反応が私の意欲に成りますので是非ご協力をお願いします。

読み物、感想の投稿はこちらまで

たくぼん : takuji@dokidoki.ne.jp

協力いただいている方々の HP アドレス

*ご協力感謝します

妖精都市

<http://www.geocities.jp/cavesfairy/>

詰将棋メモ

<http://toybox.tea-nifty.com/>

詰将棋おもちゃ箱

<http://www.ne.jp/asahi/tetsu/toybox/>

Onsite Fairy Mate

<http://www.abz.jp/~k7ro/>

K.Komine's Home Page

<http://19900504.web.fc2.com/index.html>

イラスト・素材提供 : 幻想素材サイト First Moon

<http://www.first-moon.com/>

*表紙のイラストを使用させて頂いております。

第39回WFP作品展12（再掲）及び 第40回WFP作品展 担当：神無七郎

2	5	8	→
-3	6	1	→
-7	1	-2	→
6	-1	4	→
-9	-2	-5	→

「The SAT Game」より

今月は詰棋人が好みそうなゲームを紹介します。名前は「The SAT Game」。上の図のような3列に並んだマスに、 $-9 \sim -1$ 及び $1 \sim 9$ の18種類の数が入っています。ある数を選ぶと、その数が入っているマスは一斉に緑色に、その数と符号が逆の数が入っているマスは一斉に赤色になります。例えば上の図で「2」を選ぶと、左上隅のマスが緑色に変わり、3行目の右と5行目の中央のマスは「 -2 」が入っているので赤色に変わる、といった具合です。

ゲームの目的は、どの行も赤色だけの状態にしないこと。逆にどの行にも1つ以上緑色が入れば成功です。このゲームはWeb上で誰でも遊ぶことができます。

The SAT Game（英語版）

<http://www.cril.univ-artois.fr/~rousseau/satgame/satgame.php?level=3&lang=eng>

難易度は「too easy」から「too hard」まで5段階。難度が上がるにつれて行数も増えます。また、このゲームは「待った」をすることもできるので、慣れるまでは「待った」をフル活用して、まずはクリアを目指してください。雰囲気は「数独」に似ており、何度かやれば「手筋」や「定跡」に相当するものをいくつか見つけることができるでしょう。

このページの説明にもありますが、「SAT」は命題論理の「充足可能性問題」をゲーム化したものです。また、「充足可能性問題」は「ミレニアム懸賞問題」として100万ドルの賞金が懸けられている超難問の一つ「 $P \neq NP$ 予想」とも関連しています。

ですから、このゲームに熱中しているのを家人に見咎められたら、こう言い訳しましょう。

「このゲームを極めると100万ドルが手に入るかもしれないんだ！」

さて、どんなに極めても100万ドルとは縁がない詰将棋の世界に戻りましょう。今回の出題作の説明です。

最初は前回の出題作39-12の再掲です。これは解答募集期間を二ヶ月に設定しており、まだ作者以外の解答はありません。

40-1と40-2はたくぼん氏の短編ペア。「取禁」の条件が紛れを減らしてくれるので、難問の多い本作品展では、貴重なオアシスになるかもしれません。

40-3から40-10は、神無太郎氏による協力自玉スタイルメイト特集。40-6は非標準駒数の問題ですが、「受方持駒」の「 ∞ 」は深く考える必要はありません。全種の駒を持っていることだけ意識すれば充分です。

40-11は37-7、38-11の続編、一乗谷酔象氏による「実戦初形から最短のスタイルメイト」を求める問題です。条件4)で手番が指定されていますが、駒の所属（先手か後手か）は明示されていないものがあるので、注意してください。この問題は締切を二ヶ月とします。

今回は試練の回。全部を解くのが難しいと思ったら、ターゲットを絞って1題だけでも解答をお寄せください。

解答要項

解答締切 40-11 以外：2012年3月15日（木）

40-11：2012年4月15日（日）

宛先：janacek789@ybb.ne.jp

メールの件名に「解答」の語句を入れてください。

作品投稿について

作品投稿は随時受け付けます。（原則として毎月15日の投稿まで当月号に掲載します。）宛先は解答と同じjanacek789@ybb.ne.jpへ。メールの件名に「作品投稿」の語句を入れてください。添付ファイルも可。f m検討済みなら.fmo形式のファイル添付を推奨します。

ルール説明

【対面】

敵駒と向かい合ったとき、互いに利きが入れ替わる。

【取禁】

手順中に駒を取る手があってはならない。

詰み等の概念は通常通り。

【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰ます。

【持駒： ∞ 】

指定駒を無限に持っていることを示す。

指定が特にならない場合は、全種類の駒を無限に持っていることを示す。

【協力自玉スタイルメイト】

先後協力して最短手数で攻方をスタイルメイトにする。

【スタイルメイト】

王手は掛かっていないが合法手のない状態。

【安南】

味方の駒が縦に並ぶと、上の駒の利きは下の駒の利きになる。

【安北】

味方の駒が縦に並ぶと、下の駒の利きは上の駒の利きになる。

【推理将棋】

将棋についての会話をヒントに将棋の指し手を復元する。

■ 39-12 一乗谷酔象氏作 (再掲)

推理将棋『アナグラムな対局』

助手「今度は私の先手番でいいですね。
では、お願いします」

・・・ 30 手目後手の手番で・・・

博士「王手！」

3 回目の王手だけど、これで詰みだね」

助手「負けました。

16 手目に 2 枚目の駒を打たれたところではまだまだと思ったんですけど・・・後手陣は手つかずで先手陣だけ終盤になってしまいました」

博士「最終手で詰まさずに後手陣だけ初形に戻す手もあるぐらいだからね」

助手「77 地点にこだわって角の手と角成の手と馬の手を指した作戦が悪かったのでしょうか」

博士「77 角と 77 角成と 77 馬は君だけでなく私も指した手だからね。それだけじゃないよ。棋譜をよく見てごらん。

先手と後手の各々の着手 15 手の棋譜は、順序の違いを除けば同一なんだよ。いわば、『アナグラムな対局』だったんだ」

さて、アナグラムな対局とはどのような将棋でしょうか？

二人の会話を元に推理してください。

条件

1) 30 手目に 3 回目の王手で詰んだ

2) 先手と後手の各々の着手 15 手の棋譜が順序の違いを除き同一 (注*)

3) (棋譜上)77 角、77 角成、77 馬の手あり

4) 16 手目は 2 回目の駒打ち

5) 30 手目に別の手を指せば後手陣だけ初形に戻すことができた。(後手陣の 1~3 段目を初形配置 20 枚にできた)

注* 先後同一着手：棋譜が(表記上)同一であれば着手内容は問いません。

例)

- ・ ▲76 歩△34 歩▲77 桂△同角成▲58 玉△22 馬▲同角成△77 桂の場合、3 手目と 8 手目、4 手目と 7 手目はそれぞれ同一扱いです。
- ・ ▲56 歩△54 歩▲55 歩△同歩の場合、3 手目と 4 手目は同一になりません。

☆手数短縮型問題でもありますので、「先後同一着手」の 28 手以下の解は超正解です。

■ 40-1 たくぼん氏作

対面取禁協力詰 7 手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									王

持駒 飛歩

■ 40-2 たくぼん氏作

対面取禁協力詰 7 手

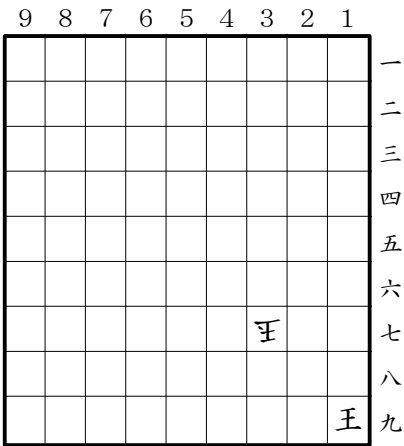
9 8 7 6 5 4 3 2 1

									王

持駒 角歩

■ 40-3 神無太郎氏作

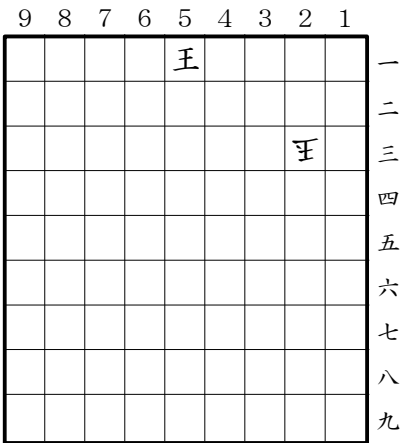
協力自玉スタイルメイト 8手



持駒 角2

■ 40-4 神無太郎氏作

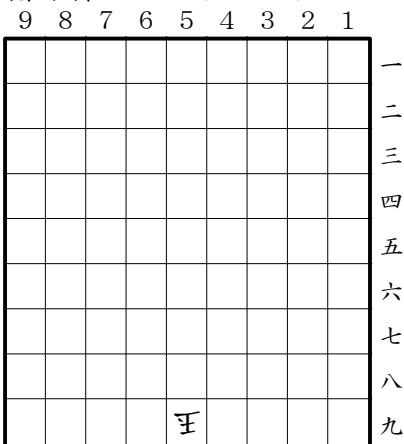
協力自玉スタイルメイト 10手



持駒 角2

■ 40-5 神無太郎氏作

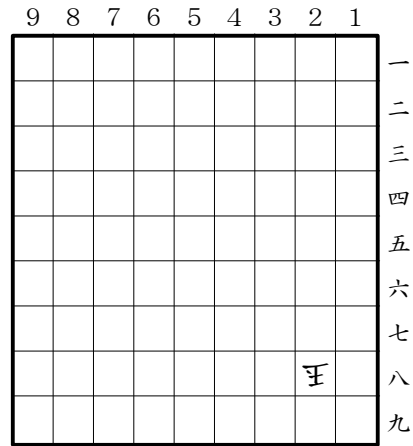
協力自玉スタイルメイト 16手



持駒 銀桂歩3

■ 40-6 神無太郎氏作

協力自玉スタイルメイト 26手

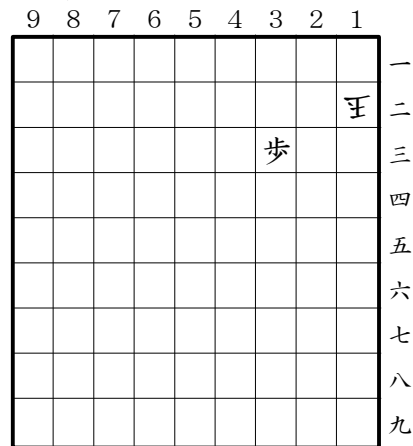


攻方持駒角3 香9

受方持駒∞

■ 40-7 神無太郎氏作

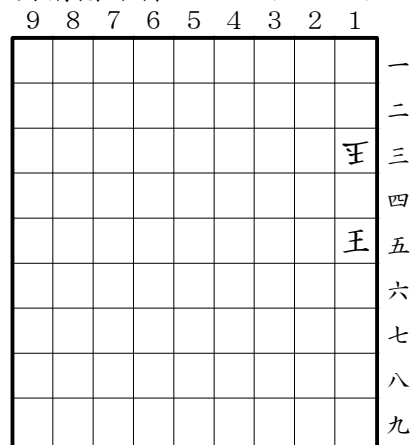
安南協力自玉スタイルメイト 12手



持駒 桂4

■ 40-8 神無太郎氏作

安南協力自玉スタイルメイト 12手



持駒 飛2 桂4

■ 40-9 神無太郎氏作

安北協力自玉スタイルメイト 14手

								王		一
										二
										三
									王	四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 桂4

■ 40-10 神無太郎氏作

安北協力自玉スタイルメイト 20手

								王		一
										二
									王	三
										四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 桂4

■ 40-11 一乗谷酔象氏作

推理将棋『生駒王手4回のスタイルメイト』

博士「新定跡の研究は進んでいるかな。

たまには一局やるか」

助手「はい。

今度は私の先手番でお願いします」

・・・29手目先手の着手の後、
30手目後手の手番で・・・

博士「まだ詰まされていないけど後手に指す
手がないから仕方ないね。負けました」

助手「ありがとうございました。

感想戦をお願いします」

博士「序盤から王手を食らいすぎたよ。

成駒の王手はなかったけど、17手目が早
くも4回目の王手だったからね。」

助手「ええ、不成の多い将棋で6回も不成の手
がありましたね」

博士「角が成られた直後の応手がおかしな
かな」

助手「ええ、2回ありましたけど、着手した駒
はいずれも香の効きに入っていました」

博士「金を取られた直後の応手もおかしな
かな」

助手「ええ、2回ありましたけど、いずれも歩
の手でした」

博士「銀を取られた直後の応手も変だったよ」

助手「ええ、2回ありましたけど、いずれも駒
が直進する手でした」

博士「そもそも2手目飛車の作戦がおかしな
かな」

角頭の歩の手も悪手だったし」

さて、「生駒王手4回のスタイルメイト」と
はどのような将棋でしょうか？

二人の会話を元に推理してください。

条件：

- 1) 29手目を指した局面がスタイルメイト
(30手目の後手番で指す手がない)
- 2) 不成が6回あり、成駒の王手はなかった。
- 3) 17手目は4回目の王手。
- 4) 後手の指し手が以下の条件を満たすこと
 - a) 2手目に飛車の手を着手した。
 - b) 角頭に歩の手を着手した。
 - c) 角を成られた直後、後手は(いずれも)香の
効き(のある地点)に着手した。
 - d) 金を取られた直後、後手は(いずれも)歩の
手を着手した。
 - e) 銀を取られた直後、後手は(いずれも)駒を
直進する手を着手した。

以上



推理将棋第5 2回出題 担当：DD++

将棋についての会話をヒントに将棋の指し手を復元するパズル、推理将棋の第5 2回出題です。はじめての方は

どんな将棋だったの？ - 推理将棋入門

(http://toybox.tea-nifty.com/memo/2007/05/post_53f2.html) をごらんください。

解答、感想はメールで2012年2月20日までに TETSU まで (omochabako@nifty.com) メール の 題 名 は 「 推 理 将 棋 第 5 2 回 解 答 」 で お 願 い し ま す 。

推理将棋第5 2回出題 担当 DD++

今回はチャンプさん特集でオウム返しシリーズからの出題です。

先手の将ちゃんと後手のオウムのピーちゃんが将棋を指すのですが、ピーちゃんは将ちゃんの着手筋をマネてばかり。さてさてどんな将棋になるのでしょうか、という問題が mixi でズバリ 30 題。その中から難易度などを見て3題を選題させていただきました。

8手では無理なので初級でも10手です。まずこの問題でオウム返し特有の考え方に慣れてください。中級も10手ですが、頭を柔らかくしないとこの順は見つけづらいかも。上級は少し長く12手。無駄手がどこにどう入るかをしっかり見切らないと強敵！

■練習問題

「さっきの将棋、▲76歩△74歩▲77桂△73桂▲65桂△62玉まで見てたけどどうなった？」

「9手で詰んだよ、って言えば残りの3手は分かるよね」

さて、残りの3手はどんな手だったでしょうか。

■本出題

・5 2-1 初級 チャンプさん作

オウム返し 10手

先手は角をどうやって動かすのでしょうか。

・5 2-2 中級 チャンプさん作

オウム返し (その3) 10手

この先手龍の作り方はちょっと珍しいかも。

・5 2-3 上級 チャンプさん作

オウム返し (その10) 12手

飛車をどう取るか、そしてそこから飛車を打ってどう詰めるか。

5 2-1 初級 チャンプさん作

オウム返し 10手

将ちゃん「ねえピーちゃん、将棋やってみようよ。」

ピーちゃん「シヨウ、シヨウ。」

将ちゃん「僕が先手だ、お願いします。」

ピーちゃん「オネガイシマス。」

将ちゃん「あれ？ピーちゃんは僕の指した筋の手をマネしてくるの？」

ピーちゃん「マネ、タノシイ。マネ、タノシイ。」

将ちゃん「ありゃ～たった10手で詰まされちゃったー。」

ピーちゃん「カッタ、カッタ。ワーイ、ワーイ。」

将ちゃん「僕が角・飛・玉だけを動かしてたのが敗因かな？」

ピーちゃん「ソウダネ、ソウダネ。」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

・10手で詰んだ

・先手は角・飛・玉だけを動かした

・後手は直前に先手が着手した筋をマネて(同じ筋へ)着手し続けた

※先手は必ず3種とも着手してください。

5 2-2 中級 チャンプさん作

オウム返し (その3) 10手

将ちゃん「ねえピーちゃん、また将棋やろうよ。」

ピーちゃん「シヨウ、シヨウ。」

将ちゃん「ピーちゃんは僕の指した筋の手をマネするから僕が先手でいいよね？」
 ピーちゃん「イイヨ、イイヨ。」

将ちゃん「お願いします。」
 ピーちゃん「オネガイシマス。」

将ちゃん「ありゃ～また 10 手で詰まされちゃったー。」
 ピーちゃん「カッタ、カッタ。ワーイ、ワーイ。」

将ちゃん「駒を取る手が無かっただけに僕が初手に玉を動かしたのが敗因かなー？」
 ピーちゃん「ソウダネ、ソウダネ。」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・10 手で詰んだ
- ・先手は初手に玉を動かした
- ・駒を取る手は無かった
- ・後手は直前に先手が着手した筋をマネて(同じ筋へ) 着手し続けた

5 2-3 上級 チャンプさん作
オウム返し (その 10) 12 手

将ちゃん「ねえピーちゃん、また将棋やろうよ。」
 ピーちゃん「シヨウ、シヨウ。」

将ちゃん「ピーちゃんは僕の指した筋の手をマネするから僕が先手でいいよね？」
 ピーちゃん「イイヨ、イイヨ。」

将ちゃん「お願いします。」
 ピーちゃん「オネガイシマス。」

将ちゃん「ありゃ～また 12 手で詰まされちゃったー。」
 ピーちゃん「カッタ、カッタ。ワーイ、ワーイ。」

将ちゃん「飛車を取ったのが唯一の駒取りで、10 手目にその飛車を使ってたね。」
 「それと駒を成る手は無かったね。」
 ピーちゃん「ソウダネ、ソウダネ。」

将ちゃん「あーあ、これで 10 連敗かー。ピー

ちゃん強いなー。」
 ピーちゃん「ドンマイ、ドンマイ。」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・12 手で詰んだ
- ・飛車を取ったのが唯一の駒取りで、10 手目にその飛車を使った (打った)
- ・駒を成る手は無かった
- ・後手は直前に先手が着手した筋をマネて(同じ筋へ) 着手し続けた

練習問題解答

問題以下、▲55角△52金左▲73角成まで。

推理将棋52練習問題 詰上り図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	香		銀	金			銀	桂	香	
二		飛		王	金			角		
三	歩	歩	馬	歩	歩	歩	歩	歩	歩	
四			歩							
五				桂						
六			歩							
七	歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	
八								飛		
九	香		銀	金	王	金	銀	桂	香	

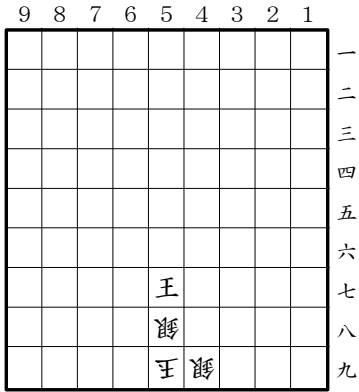
持駒 桂

9 手目に対応する10手目がないので、準オウム返しとでもいうべき手順です。実は45回出題の例題と実質的には同じ手順なのですが、非限定がかなり多いために6手目までを見ると全く違う手順に見えますね。推理将棋では同じ手順でも条件が違えば別物、というのがよくわかっていただけたらと思います。

(参考図2)

青木すみれ作 (詰将棋パラダイス 1998年9月)

最悪詰7手



持駒 金4

69金 同銀成 58金 同銀生 49金 同銀成
58金 まで7手

やはり作家は「最少配置」という地味な主題より、「持駒金一色」の方に惹かれるのでしょうか？金が4枚しかないのが何とも残念に感じる図です。

さて本作は、銀を不成・成で還元させる単玉最少配置の作品なのでしょうか？

出題時はそう思っていました。実は小林看空氏の解答にそれを上回る図が付けられていました。以下、各氏の短評をご覧ください。

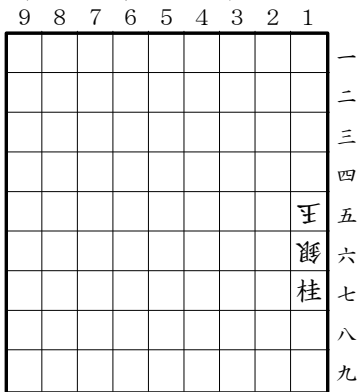
【短評】

小林看空さん

単玉を買う。
ひとつ思いつきました。2解ですが...

(参考図3)

協力詰4手 2解



持駒 金2

☆なるほど、受先形式にするわけですね。
本作は2解での出題ですが、唯一解に出来るのは自明 (例えば持駒を「金香」とすれば良

い)なので、受先形式も考慮に入れるなら単玉で盤上3枚が最少配置のようです。
上図は2解目も面白いので、読者の皆様も解いてみてください。解答は本稿の最後に掲載します。

変寝夢さん

間違い探しクイズみたい。

小峰さん

成らせその1。

たくぼんさん

成らせ手筋基本編ですね。

持駒金3では非限定か・・・36王置いてまではねえ。

☆たくぼんさんの短評は作家的視点も入っていますね。本作は解くだけなら簡単ですが、原理が簡単な分、いろいろと発展や応用が考えられます。簡単な作ほど、作家視点で見ると、見た目以上の発見があると思います。

DD++さん

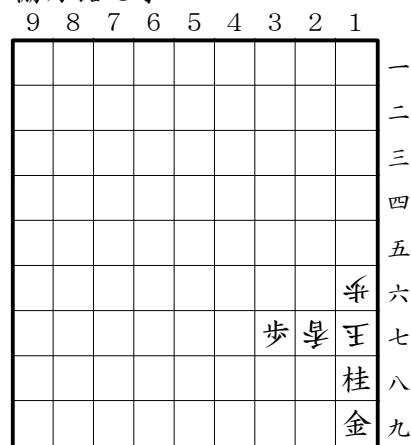
初見ではわからなかったが、39-2を解いた時に「なるほど」。

占魚亭さん

銀を成銀に。

■ 39-2 神無太郎氏作 (正解8名)

協力詰5手



持駒 金2 桂

【解答】

28金打 同香成 27金 同杏 29桂 まで5手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

【解説】

前局に引続き「成らせ」の手筋。今度は香の「成らせ」です。持駒も「金金桂」で前局と同じ。この辺りの配慮はさすがです。また、意味付けも統一されており、「とどめの駒への利きを消すための成らせ」となっています。ただ、とどめの駒が金から桂に変わっているのです、手順から受ける感触はかなり違います。

少し疑問に思ったのが 19 金の配置。これを 38 飛に変えれば、37 歩が省けるのですが、大駒配置を嫌ったのでしょうか？

ちょっと脱線になりますが、筆者も数年前に「成らせ」を主題とした、こんな作を発表したことがあります。

(参考図 4)

神無七郎 作

ばか自殺詰 14手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 金3銀3桂

(2008年1月6日 Onsite Fairy Mate、http://k_7ro.abz.jp/solve/solution26.html#131)

手順は当時の結果発表をご覧ください。これは成って戻るまでの経過を長く引き延ばす方向で作った作品です。意味付けも「成った駒でとどめを刺すため」になっていますが、これは協力自玉詰ですので当然ですね。

脱線ついでに、桂の「成らせ」にも触れておきましょう。この分野では、あの伊藤看寿が素晴らしい作品を創っています。

(参考図 5)

伊藤看寿 / 宝暦 5年 / 将棋図巧 46番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 飛金銀2

27 銀 同桂成 26 金 同圭 25 銀 同圭
 15 飛 同圭 49 馬 26 玉 27 馬 35 玉
 34 金 同玉 33 飛 同銀 同角成 35 玉
 44 銀 同金 同馬 24 玉 33 馬 14 玉
 15 馬 同玉 16 金 14 玉 26 桂 同香
 36 馬 同と 25 金 23 玉 15 桂 22 玉
 32 と上 11 玉 23 桂生 同銀 21 と寄
 12 玉 22 と まで 43手

看寿の作でも分かるように、「成らせ」は短編だけではなく中長編を支える主題にもなり得るものです。もちろん、ミニマムな表現を追求する路線も重要で、桂の「成らせ」のように、実現が難しい物を簡単に実現できれば、それは凄いことです。また、演出に凝る方向性もあるでしょう。例えば、成らせる駒と別の駒を絡ませて、複数の駒の還元を一局で表現する…というような演出です。

脱線しすぎて、解説というより神無太郎さんの作品を元にした小文になってしまいましたが、これには「成らせ」を主題とした作品をもっと見たいという筆者の個人的な願望が反映されています。「成らせ」はもっと盛んに研究されて良いテーマだと思うのです。

【短評】

変寝夢さん

ヤリがアプリコットに変身。

☆アプリコット=アンズ(杏)ですね。
成香の多い作品の命名にピッタリの名前ですので、誰かが使っていてもおかしくないのですが、筆者の記憶にはありません。

小峰さん

成らせその2。ただどちらも強い既視感が。

たくぼんさん

こっちは金を捨てて桂で詰める。
セットだったんですね。

DD++さん

あと後手桂を成らせるパターンがあればよかったですけど最低9手になるので作りにくいんでしょうね。

雲海さん

銀と香をしたから3以降は桂と歩かと思っただけ違いました(笑)
2手目の対比がありますね。

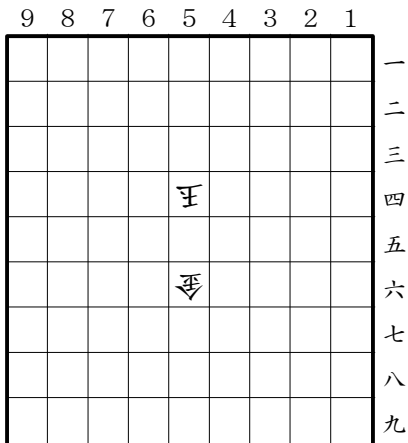
☆香は不成だと戻れませんので、2手目の対比(不成と成)は意図的かどうか…

占魚亭さん

香を成香に。

☆続編で桂を期待する声はいくつかありますね。太郎さん、いかかでしょう？
桂以外(飛角歩)でもいいですよ。

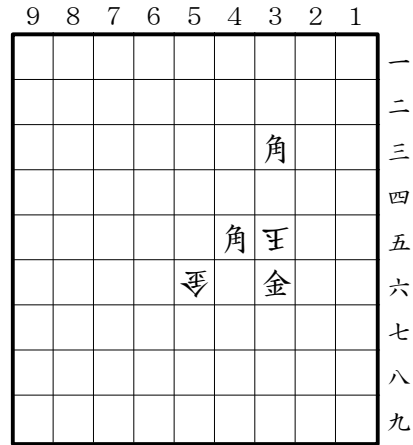
■ 39-3 神無太郎氏作(正解8名)
協力詰5手



持駒 角2 金

【解答】

45角 44玉 33角 35玉 36金 まで5手
(詰上り)



持駒 なし

【解説】

56金が何とも悩ましい配置。

協力詰は詰型の想定が大事ですが、この配置があるために、56金を退路封鎖の駒として活用する詰上りを考えよう……と、誰しもが思ってしまう。

ところが、この思わせぶりの配置の意味は単なる余詰防止。詰上りにはまったく関係ありません。おかげで、思わぬ苦戦を喫した解答者が続出しました。普通なら、余詰防止だけの駒は(特に簡素図式では)マイナス材料にしかありませんが、本作は例外です。こんなことがあるから詰将棋は面白いですね。

【短評】

小林看空さん

56金を壁に使うことばかり考えていて手間取った。わたしなら56金⇒57龍の配置かな…

変寝夢さん

詰め上がりの予想を間違え大苦戦。
56金に惑わされました。

小峰さん

詰上りのパターンは限定されているので、それをどの場所を実現するかという問題。
なのに何故か角を離して打つ手ばかり考えてしまって遠回りした。

たくぼんさん

紛れの数は多そうです。

☆ f mで計測したところ解析局面数は 227192 でした。39-2 などは解析局面数 229 ですから桁が違いますね。

ちなみに、看空さんの 56 金→57 龍案は、解析局面数 258448。f mにとっては 57 龍配置の方が大変ですが、人間にとってはどうなのでしょう？

可能なら、どちらがより解答者を悩ますのか心理学的(?)な実験をしてみたいですね。

DD++さん

角角金で空中で詰める形は、と考えてすぐに解決。

雲海さん

初手は金だと裏読みしたけれど、案の定…

占魚亭さん

初手に少し悩みました。

☆ 短評から推し量ると、本作で紛れに嵌らなかったのは、たくぼんさんと DD++さんだけでしょうか。

雲海さんの仰るように、1 枚しかない金を先に使うような作ができたなら、それはそれで解答者を悩ませる心理作になりそうです。

■ 39-4 神無太郎氏作 (正解 8 名)

協力詰 5 手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
	飛			銀	王				四
					將				五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

【解答】

43 銀生 64 飛 同飛 53 玉 63 飛打 まで 5 手

(詰上り)

									一
									二
			飛	王	銀				三
			飛						四
					將				五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

【解説】

開き王手の仕方と合駒を問う、ある意味スタンダードな問題。前局の 56 金と同様、45 銀は詰上りに関与せず余詰を防いでいるだけですが、前局とは違いこの配置に惑わされた解答者は少ないようでした。

56 金には惑わされるのに、なぜ 45 銀には惑わされないのでしょうか？

少し考えてみたのですが、これは 45 銀があまりにもよく働き過ぎていることに原因があるような気がします。例えば、初手から「65 銀 74 金 同飛 55 玉 56 金」とする筋や「43 銀生 64 金 同飛 53 玉 54 金」とする筋など、いずれも 45 銀が詰みを阻止しており、解答者は「なるべく銀に触りたくない」という心理が働くようになります。その結果、銀の利きを避ける作意手順に解答者が早く到達したのではないのでしょうか？

上で述べたことは、あくまで自分が解いた時の記憶を元に推測しただけで、本当に合っているかは分かりません。でも、働きが強い駒が解図を容易にし、働きが弱い駒が解図を困難にする傾向がある場合があるということも、作家は頭の片隅に入れておいた方が良いと思います。

【短評】

小林看空さん

これはすぐみえた。

変寝夢さん

源泉館で似たのをみたような・・・。

初手は引く一手と思ったのだが。

☆ 源泉館の問題とはこれですね。

(参考図 6)

神無三郎／詰将棋パラダイス／
1987年9月／源泉館(2)11

ばか詰 5手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
						王			五
									六
			銀		銀				七
					飛				八
									九

持駒 なし

☆ ここでは解答を伏せておきますので、未見の方は解いてみてください。解答は本稿の末尾に記載します。

小峰さん

主張がよくわからない。

たくぼんさん

これは何故か一目で解けました。
銀に目が眩んではダメですね。

DD++さん

なんとなく 66 金合してしまいしばらく立ち往生。この形で飛はパツと出て来なかった。

☆ 「66 金合」は「64 金合」の誤記ですね。
解答の方にも「66 飛合」と書いてありましたが、明らかな誤記なので正解としています。

雲海さん

3とセット運用？
主張が少し分かりづらいかしら

☆ 作者のコメントは特になかったので想像になりますが、金に触らない 39-3 と銀に触らない 39-4 には共通性を感じますね。
作者本人に問い合わせても良いのですが、それもちょっと無粋ですね。考え過ぎなら、それはそれで一興です。

占魚亭さん

かなり考えました。合駒が出てくるとは。

■ 39-5 神無太郎氏作 (正解 8 名)

協力詰 13手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
									五
									六
						馬	歩	銀	七
						王	銀	王	八
						歩	銀	王	九

持駒 なし

【解答】

28 銀 同銀生 29 金 同銀直成 46 馬 37 飛
同馬 28 全 同馬 同歩生 39 飛 29 歩成
28 銀 まで 13 手
(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
						王	銀	銀	八
						歩	飛	王	九

持駒 なし

【解説】

銀と歩が共に不成&成の2段活用を見せる作品。

本作で用いられているのは、玉を盤の隅に幽閉して作られた、小さな半解放型の密室です。玉は密室から出られませんが、飛筋と角筋の王手で外部から密室に接触することはできるので、これを用いて局面を打開します。密室型は「限られた手段で一見不可能な詰筋を見つける」というパズル色の強い作品を作るのに用いられますが、これは合駒を主軸とした手順の実現にも利用でき、神無太郎氏もしばしばこの構図を採用しています。例えば、作者が Web 上で公開されている作品集、**AWAKEN 1.00Z** (<http://homepage1.nifty.com/kamina/taro/awaken/index.htm>) に同様の構図の作品を複数見ることが

でます。

本作では玉の幽閉に攻方の王を使っていることを利用し、逆王手を避けるための応接を主軸に据えています。頑張れば、銀歩以外の駒もこの応接に加えることができるかもしれませんが、余計な装飾は加えず、最小限の配置でスマートに仕上げるところが、作者のセンスと言えるでしょう。

解図に際しては、2手目の選択が重要です。歩でも銀でも以後の手順は同じように進められますが、銀でなければいけないことが最終手ではっきりします。ただ、歩より銀が欲しいのは自然な感覚なので、もっと早い段階で2手目を銀に絞った解答者が多かったと思います。成と不成が作品の主題になっているところは、39-1や39-2とのほのかな関連性を感じさせます。

【短評】

小林看空さん

二手目歩生か銀生かが決まれば、一気に解ける。

変寝夢さん

三七飛が好手。

小峰さん

狭い空間で合駒がどんどん出る展開を見ると、善し悪しは別としてああやっぱり太郎さんだと感じる。

たくぼんさん

不成→成の2連発。無駄がありません。

DD++さん

手数でちょっと驚いたが手の幅が狭い上に、合駒も明らかに49歩が飛の打ち場制限なのであまりなやむことはなくて助かった。

雲海さん

成・不成の必然性が強すぎるため、それらの手に対する意外性はないけれど、予定調和の楽しむ作品かな

占魚亭さん

2手目さえ分かれば、後は簡単。

☆さすがに皆さん軽く解かれたようです。39-1から39-5は今回の解答増に大きく貢献してくれましたね。

■ 39-6 神無太郎氏作 (正解6名)

アンチキルケ最悪詰 113手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

			皇	王	皇				一
									二
				王					三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

攻方持駒香 ∞ 歩18

受方持駒 ∞

※千日手禁、詰上り手余り

【ルール】

• 成禁

詰手順中に成る手があってはならない。

• アンチキルケ

駒取りがあったとき取った方の駒が、最も近い将棋での指し始め位置に戻される。

• 最悪詰

攻方はなるべく相手玉が詰まないように王手し、受方はなるべく早く自玉が詰むように応じる。

• 千日手禁

同一局面が4回現われる手を禁手とする。

(将棋の実戦と異なり、連続王手かどうかは無関係。持駒の駒数が無限の場合は、有限回の増減があっても同一とみなす。)

• 持駒： ∞

指定駒を無限に持っていることを示す。

指定が特でない場合は、全種類の駒を無限に

【解答】

『52 香 同玉/51 玉 52 香 同玉/51 玉
52 歩 同玉/51 玉』×18
52 香 同玉/51 玉 52 香 同玉/51 玉
52 香 まで 113 手

(詰上り)

				王	王	王			
				香					
				王					

攻方持駒香∞
受方持駒∞

【解説】

千日手を可能な限り避け続ける問題。

攻方は香を打つか、歩を打つかの2択。受方はどちらを打たれても同玉と取って51に戻る1択です。「52〇 同玉/51 玉」の2手で盤上の配置は元に戻るの、千日手をどれだけ回避できるかは、持駒の使い方に掛かっています。受方は何枚駒を取っても「∞」のままで変化しない(これが有限と無限の違い)ので、攻方の持駒の変化だけが千日手を避ける手段になります。

攻方の持駒には、香は無限にあります。歩は限られた数しかありません。従って、攻方の戦略は可能な限り香を打ち続け、千日手を目前にしたときだけ歩を使うというものになります。本作での「千日手」の成立条件は「同一局面4回」なので、香2回・歩1回が最も手を長く続けられる手段です。最後は歩が尽き、3回目の香を打たざるを得なくなり詰上ります。

でも、最後はなぜ詰んでいるのでしょうか？実はこれが将棋の実戦での「連続王手の千日手の禁止」と本作の「千日手禁」の違いです。将棋の実戦では千日手回避義務は王手を掛け続けている側にしかありませんが、本作の「千日手禁」は千日手を指した側が無条件に反則を取られます。最終手の「52香」の時点ではまだ千日手になっていませんが、それに対して「同玉/51玉」と応じると千日手が成立するので、この手は指せないのです。

今までも「持駒：∞」の作は時々出題されてきましたが、それらは「大量に駒を使う」あるいは「駒数に依存しない」ことを示す象徴で、「∞」を有限の(しかし十分に大きい)数に置き換えても差し支えないものでした。しかし、本作では「∞」の「駒を取っても変化しない」という性質を利用して、既存の作例とは一線を画するものになっていると思います。

【短評】

変寝夢さん

5二歩の目的は持駒を減らすためじゃなく、局面を変化させることだけなのか。面白い意味づけです。

小峰さん

今回の太郎作品で一番感心しました。持駒1兆枚と持駒無限大って、同じ事のように実は全然違うんですね。

たくぼんさん

これでいいのかな？
なんと評したらいいのか。目の付け所が私とは違います。

DD++さん

歩の数を変えて受先にすれば666手の悪魔詰にもできそう。

☆悪魔詰はでは橋本哲作953手(カピタン1980年5月)がありますが、これは千日手を利用しています。千日手を利用しないものは大恥早計作111手が最長です。666手の1/6です。

(参考図7)

大恥早計作(将1996年1月)

悪魔詰111手

銀									
銀									
	角	と		玉	銀		と	銀	
	王	香	角	桂		桂	香	と	
			と	と	と	と	と	と	
	歩	歩						歩	
		歩	歩	歩	歩	歩	歩		
	香	飛		桂	桂		飛	香	

持駒 金4

(※解答は本稿の末尾に掲載)

☆悪魔詰で666手を目指す場合は、まずこの作を越えることが一つのターゲットですね。

雲海さん

無限数に対して有限数の加減を行っても無限数

$$\infty \pm n = \infty$$

だから初形から「52香、同玉/51玉」を指し

た局面と2手前の局面と比べても、持駒の数が変化していないため同一局面。

数が有限の将棋ではある局面から同一局面に至るまでに最小で4手かかるが、今回の問題だと2手で出来る。

コロンブスの卵みたいな作品ですねえ。ただ無限数の概念を将棋に持ち込んだらややこしくなりそうです。

☆ 雲海さんご指摘のように、2手で元の局面に戻れるのはアンチキルケの特徴で、このおかげで千日手の判定が分かり易くなっていると思います。

「無限」に関しては、詰将棋ではあまり深入りしない方が無難でしょうね。本作くらいの「無限」なら良いのですが、あまり凝るとキリがないですから。

■ 39-7 神無太郎氏作 (正解1名!)
対面協力自玉スタイルメイト 10手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 飛 角

【解答】

21 飛 92 玉 93 角 29 玉 39 角成 38 角
17 王 39 玉 29 飛生 28 角 まで 10手
(最終形)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

【ルール】

• 協力自玉スタイルメイト

先後協力して最短手数で攻方をスタイルメイト(王手は掛かっているが合法手のない状態)にする。

• 対面

敵駒と向かい合うと互いに利きが入れ替わる。

【解説】

正解者1名の難解作。難しい原因は作意が攻方王の移動を含むことが原因でしょう。ただ、作意が攻方王の移動を含むことは、この初形とルールから推測ができます。

自玉スタイルメイトは基本的に攻方王を狭いところに移動させることが重要です。飛や香を使って盤の端と同じ効果を得られる場合もありますが、それは合駒や対駒で発生させねばならず、この初形と手数では無理です。この作品を含め、3局は共に王の移動が出てきますが、それは偶然ではないのです。

また、双玉の自玉スタイルメイトには「玉同士が近い方が良い」という性質もあります。玉同士が離れていると、王手が自玉を縛る手になりやすく、逆に玉同士が近いと、王手が自玉を縛る手になり易いのです。

この2点を抑えておけば、玉を王の近くにジャンプさせ、開き王手で王を端に寄せるという大まかなプランを立てることはできるでしょう。もちろん、そこから後、どうやって包囲網を構築するかは難しい問題ですが、やはり利きの大きい大駒の着手から読んでいくのが近道でしょう。そして後は**根性!**です。

以上、解答者の立場から解図の指針を述べましたが、作家、あるいは鑑賞者として本作を見ると、初手に限定で打った飛を最後に不成で大きく移動する展開が実に見事で、思わず溜息が出ます。最終形において対面の効果で飛がピンされていることも、この鮮やかな手順に更に華を添えており、ルールが「詰」でなく「スタイルメイト」であることを割り引いても、「虫の良い手順だなあ」というのが率直な感想です。

【短評】

たくぼんさん

後手玉を近づける順を考えると光明が見えました。初手の21 飛を最後生で最長移動とは凄い。

☆ 本作の正解者はたくぼんさんお一人。難解さ
だけなら次の作品の方が上だと思うのです
が、DD++さんがその予想を覆しました。

■ 39-8 神無太郎氏作 (正解2名)

協力自玉スタイルメイト 16手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
									五
								歩	六
							王		七
				王					八
				飛					九

持駒 香2

【解答】

28 香 36 玉 39 香 45 玉 37 王 34 玉
26 王 38 飛 44 飛 23 玉 15 王 28 飛生
24 飛 同飛生 33 香成 同玉 まで 16 手
(最終形)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
						王			三
							飛		四
								王	五
								歩	六
									七
									八
									九

持駒 なし

【解説】

前局で「虫が良い手順」と言いましたが、本
作は「更に虫が良い手順」と言わねばなりませ
ん。初形で48に居た王が、はるばる15まで移
動するなど誰が考えるでしょう？ しかも、
それを実現するための仕掛けは49飛と16歩だ
けなのです。

特に16歩の配置は絶妙です。

自玉スタイルメイトで、こんなところに歩が
ポツンと置かれていたら、それは邪魔駒か、受
方玉の移動経路を限定するための配置です。と
ころが、本作では邪魔駒どころか、スタイルメ

イトの要の駒となっているのです。

試しに16歩を除去して本作を解いてみてく
ださい。どうやっても18手以上掛かってしま
います。その中には途中で16歩を消せる手順
(例：29香 28角 同香 16玉 43角 25飛 17
香 同玉 19飛 28玉 18飛 29玉 65角成 38
角 28飛 同玉 55馬 同飛 まで 18手)も存在
しますが、18手掛かることは変わりありません。

16歩は消せない、なら16歩を活用しよう—
—必要なのはこの発想の転換です。歩の前に王
を置けば、歩の利きは消えますし、王の後ろの
利きも消えて一石二鳥です。問題はそれが可能
かどうかですが、持駒の香2枚、そして49飛
を見れば、開き王手を使って王が移動できるこ
とが分かります。

ただ、そうすると問題になるのが香の打ち場
所。作者もおそらくは香の数を増やして、王の
移動距離を増やしたかったと思います。しかし、
香の数をあまり多くすると非限定を消すのが困
難になります。そして、無理やり非限定を消そ
うとすると、紛れの乏しい、つまらない作にな
ってしまいます。本作では持駒の香を2枚に絞
り、「1枚目の香を取らせるための駒を2枚目の
香で発生させる」という仕組みを取り入れるこ
とで、自然に限定打を成立させています。前局
もそうでしたが、この辺は力を入れる部分と力
を抜く部分をわきまえた、作者のセンスが光る
所と言えるでしょう。(本作では2枚香の限定打
を「飛」の限定打に用いていますが、2枚香の
コンビネーションで別の種類の合駒を限定させ
ることはできるでしょうか……本稿を読んだ方
はぜひそれも考えてみてください。)

それにしても本作は良くできています。2枚
香の限定打で発生させた飛が、2度も不成で移
動し、王を閉じ込めています。機械検討ができ
ない時代にこんな虫の良い手順の作を発表すれ
ば、ほぼ99%余詰発生が約束されたようなもの
ですが、今はほぼ完ぺきなチェックが可能です。
だとすれば、作家に求められるのは思いっきり
「虫が良い手順」を妄想する力ということになり
ます。「構想」は「矛盾のない妄想」です。読
者の皆さん、どんどん妄想を膨らませて、「虫の
良い手順」の作品を生み出してください。

【短評】

たくぼんさん

最後まで残ったのがこれです。

15王型は予想付くのですが、香の打場所をど
う言う意味づけで限定させるかに苦労しま

した。限定打2発お見事でした。

DD++さん

香を打つ位置がなんで限定するんだ？と考えたら後手飛車を横に動かすしかない。でも8段目に香を並べて48飛合から2枚とも取ろうとして失敗。38飛合なのか……。

☆正解のお二人は、割と早い段階で15王型の最終形に気付いていたのですね。で、手順に非限定がない(はずである)ことを逆用して答えを求めています。16手という協力自玉系では長丁場の作品を解くには、この裏ワザは必須です。

■ 39-9 神無太郎氏作 (正解1名!)

安南協力自玉スタイルメイト 16手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
								王	六
									七
									八
				王					九

持駒 桂3 香

【解答】

29 桂 16 玉 28 香 26 玉 37 桂 27 飛
38 桂 37 玉 39 王 26 玉 29 王 38 飛生
19 王 28 飛生 38 桂 同飛成 まで 16 手
(最終形)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
								王	五
									六
							王		七
									八
								王	九

持駒 なし

【ルール】

・安南

味方の駒が縦に並ぶと、上の駒の利きは下の駒の利きになる。

【解説】

神無太郎氏の「協力自玉スタイルメイト」では、第34回WFP作品展Bコースの発表作が強烈でした。(できればWFP39号で、これらの作を鑑賞の上、本稿に戻ってください。)その時は「安南」「安北」という性能変化を活かして、王を別の駒に変身させたり、ある駒の利きを別の駒で消したり、といった様々なテクニックが駆使されていました。ただ、あの時の作品群は「最後に王以外の駒を盤上に残す」という共通する狙いがありました。本作の狙いはそれらとは異なります。むしろ前局の39-8と共通する狙いです。

その狙いとは「攻方王の移動」です。

39-8では開き王手を利用して王を移動させていましたが、「安南」では別的手段で王を移動させることができます。種駒を並べておいて、王がその裏を動くことで、種駒を次々と王に変え、王が動けるのです。これは「間接開き王手」とでも呼ぶべきでしょうか？

呼称はともかく、開き王手モドキで王を移動できることは分かりました。なら、移動先はどこでしょう？これは難しく考えることはありません。一番スタイルメイトにしやすい場所、19で良いのです。そして19王を幽閉する駒も単純に龍で構いません。

こうして現われる手順も、不思議と前局との共通性を感じさせます。前局で「開き王手」に使った駒を飛が不成で掃除していったように、本作でも「間接開き王手」の駒を飛が不成で掃除していきます。最後には飛の「成」が登場して締め。不成・成の繊細な使い分けは、今回の作品展の神無太郎氏の作品に共通する特徴です。12手目38飛生などは一瞬セルフチェックに見えるので、特に効果的です。

ただ、性能変化ルール特有の難問を警戒したのか、それとも見た時点で諦めたのか、本作の正解者もたくぼんさんお一人でした。

今回のスタイルメイト3作品はどれも好作だっただけに、解答が少なかったのは残念です。

【短評】

たくぼんさん

先手王を19に移動させると山を張り、定番の38龍を目指しました。山が外れたら解け

なかったでしょう。

☆たくぼんさんは第 34 回作品展を経験しているので、「安南特有の最終形かも…」という不安になるのは仕方ありません。でも、手を付けさえすれば、意外と解き易かったのではないかと思います。

■ 39-10 たくぼん氏作 (正解 a:4名 b:2名)

a) 安南打歩協力自玉詰 8手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

										一
										二
										三
										四
	皇		飛							五
王										六
			皇							七
										八
	金	玉								九

持駒 なし

b) 安南打歩協力自玉詰 8手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

										一
										二
										三
										四
	皇		飛							五
王										六
			皇							七
										八
	金	玉								九

持駒 なし

【ルール】

• 打歩

打歩詰以外の詰みを禁手とする。

この条件は双方に適用する (完全打歩)。

• 協力自玉詰

先後協力して最短手数で攻方王を詰める。

【解答】

a)66 飛 76 角 同飛 87 玉 86 飛 同香
69 角 78 歩 まで 8手

(詰上り)

										一
										二
										三
										四
										五
	皇									六
	王		皇							七
		皇								八
	金	王	角							九

持駒 なし

b)66 飛 76 金 同飛 86 桂 95 金 97 玉
77 飛 87 歩 まで 8手

(詰上り)

										一
										二
										三
										四
金										五
	料									六
王	皇	飛	皇							七
										八
	金	王								九

持駒 なし

【解説】

この作の投稿を受け取ったとき、たくぼん氏と神無太郎氏の中身が入れ替わったのかと一瞬思いました。

…というのは冗談ですが、まあそれくらい理屈っぽい作品だったんですね、特に b)が。

まずはどちらかと言えば普通の a)から説明しましょう。詰上り、78 歩は角や金で取れるように見えます。しかし、それでは受方玉を詰めてしまいます (玉は安南の効果で香の性能になっています)。これは「打歩」以外の詰なので、禁手となります。つまり、78 歩は取れません。めでたく打歩詰です。

ここまでなら「完全打歩」のルール設定ではよくある話です。問題は b)。

まず「詰上り」を見てみましょう。87 歩は飛で取れそうですね。では「同飛」と歩を取った局面を見てみましょう。これは詰みですか？

■ 39-11 もず氏作 (正解 2名)

Koko詰 13手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								王	銀
								金	玉
					馬				
								飛	

持駒 歩

【ルール】

• Koko

着手は、そのまわりの8マスに何らかの駒が存在するような地点のみ有効。王手にもこの条件は適用される。

(詳細は WFP42 号の小林看空氏の記事、「Koko について」を参照してください。便宜上、本作品展ではルール名を「Koko」と表記します。)

【解答】

13 金 同玉 23 飛生 12 玉 13 歩 同金
同飛成 22 玉 11 金 21 玉 12 馬 11 玉
21 馬 まで 13 手
(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							馬	王	
								龍	

持駒 なし

【作者のコメント】

ミニ煙を逆算で作ってみました(ミニすぎますが)。変化はほとんどありませんが、不成が入ってなんとなくそれらしくなったので投稿してみます。3手目で成とすると、5手目の13歩が打歩詰です。

Kokoでの3枚の詰め上がりは、ほかに「21馬 23桂/11玉」「13香 21飛/12玉」の2つのタ

イプがありますが、どちらも逆算が難しい感じがします。

このルールでは、玉を包むように寄せようと思うと逆に網をすり抜けられます。したがって、初手はあえて狭い方から王手をかける13金が正解となります。ルールの性質上、双方ともに合法手が限られることが多いので、慣れれば意外に作りやすいかもしれません。

主な変化・紛れは以下に記しますが、細かい変化・紛れは添付の kif ファイルでご確認ください。

- 初手 33 金には、32 玉が唯一の逃れ。対して、23 飛成がきわどいが、42 玉で逃れている(33 玉では詰む)。
- 初手 34 金には、25 歩の合駒が利く。続いて44 馬にも33 歩合が利く。
- 初手 23 金は、21 玉以下手は続くが逃れ。
- 2 手目 11 玉には 22 飛成でそのまま詰んでいる。

【解説】

WFP42 号に掲載された小林看空氏の紹介記事で一躍脚光を浴びた Koko ルール。この記事では協力系の作品が出題されましたが、これを読んで関心を持ったもず氏が対抗系のルールで作品を送ってこられました。それも例題クラスではなく、ミニ煙に不成入り！ 作品価値は充分です。偶然ですが、神無太郎氏の不成&成を主題とした作品群と呼応した形にもなりました。

投稿には作者の示した主な変化と紛れの他に、詳細な変化・紛れを記した.kif ファイルが添付されていました。ここではそれを掲載することはしませんが、中には7筋まで追うような紛れまで含まれており、作者の読みの深さが窺えます。

対抗系 Koko で注意しないといけないのは、玉の逃亡です。本作だと、左側から王手を掛けると、その駒の周辺をすり抜けるような手順でどんどん玉が逃げていってしまいます。従って、右へ右へと玉を誘導するように王手を掛けねばなりません。その中で、やはり光っているのが3手目の23飛生。次の13歩が打歩詰になるのを防止する手ですが、こんなルールでも打歩回避の不成が成立するという事に驚かされます。普通詰将棋の他の手筋も Koko に移植できるかどうか、確かめた方が良さそうですね。

私自身も Koko を少し試作しましたが、煙詰を作るとなると、「詰上り型」をもっと知りたくなります。本作のように龍馬のコンビなら2枚

だけで詰めることができますが、これが馬金のようなコンビだと残念ながら詰みません。果たして全駒煙はできるのか？ Koko で逆算するのは簡単なのか難しいのか？ 大海を追い回す手順に知られざる「余詰」が潜んでいないか？ etc.

謎に満ちた Koko ルール。未踏の領域の探索は始まったばかりです。

【短評】

小林看空さん

初手 33 金などに誘われるが、32 玉と大海に脱出される。三手目飛車が成ると打ち歩詰。11 金が Köko らしい。煙詰の詰め上がりは見事。

小峰さん

Koeko は基本盤端で詰ます方が楽なので、金銀を取らせてでも 3 筋方面へ逃がさないのが肝心。逆に言えば、中央方向へ敢えて追い出す作品が出来たら結構面白いかも知れません。

たくぼんさん

打歩が絡んでくるとはビックリしました。koko でもやはり不成でしたか。慣れないので何度も勘違いを繰り返しましたが解けた喜びは格別でした。

☆ 機械検討ができないので少し心配だった今回の出題ですが、余詰指摘はなし。まずは一安心です。協力系では神無次郎氏が Koko に対応した f m を作成されています（一般公開は少々お待ちください）、かしこ系は需要次第でしょうか？ どなたか作ってみませんか？

【総評】

小林看空さん

Köko が解けたので、さっそく解答します。あとは太郎さんのばか詰だけですが、よろしく。

変寝夢さん

7-9 って詰め上がりの見当はどうやってつけるんでしょうか？
たくぼんさんあたりは解いてくるんだろうなあ。

☆ 変寝夢さんの予想通り、たくぼんさんは 39-7 ~ 39-9 も解きました。第 40 回出題もステイルメイト特集になりますので、今回の結果稿や過去の WFP 作品展等で出題された作品を参考にして解答をお寄せください。

小峰さん

1・2 月も何かと立て込み、無解（というよりノータッチ）が沢山残ってしまいました。解答書きも短時間で急いで済ませたので、変な誤記などやらかしているかも知れませんが、宜しくお願いします。

☆ 今年の 2 月は例年より 1 日多いですが、それでも通常の月より短いので、大変だと思います。無理はせず、解けた分だけでも解答を送ってください。明らかな誤記はスルーしていますので、そこはご心配なく。

たくぼんさん

39-12 は解答期間を延ばしていただいているにもかかわらず、39-11 までの問題も難解なものがあり結局 12 の解図の時間があまり取れませんでした。3 月号の問題も多そう？なので難解なものがあるのか不安です。

☆ 次も難解です。（キッパリ）

たくぼんさんが解けない作は、たぶん誰も解けないので、何とか解答を送ってくださるようお願いいたします。

☆ 先月と今月は「第 35 回神無一族の氾濫」の結果稿を書く作業を行っていたのですが、文章を 4 ページ以内に収めるため、かなりの圧縮や割愛を余儀なくされました。それに比べると、分量を気にせず自由に書ける WFP は正にパラダイスです。字数との格闘に苦しんだ反動で、今回の解説はいつにも増して冗長な表現や脱線が多くなりましたが、どうかご容赦願います。

※参考図 3（小林看空氏作）の解答

27 銀生 16 金 同銀成 25 金 まで 4 手
17 銀成 25 金 16 玉 26 金打 まで 4 手

☆ 最初の解は神無太郎氏と同じく銀生 & 銀成の構成なのですぐに見えらると思ひ

ます。後の方の解では重要そうな桂をあっさり取ってしまいます。いわゆる心理的妙手で、意外に苦戦した方も多いのではないでしょうか。

ただ、この解では17桂は飾り駒なので、2解のうちの1つではなく、単独で出題したら怒られそうですね。

※神無三郎作 源泉館(2)11の解答

58銀 56玉 67銀 57玉 47飛打 まで5手

☆いかにも合駒が出そうな形で合駒をしないのがミソ。39-4を解いた後だと、却って詰めにくくなりそうです。

※参考図7(大恥早計作)の解答

76と94玉 85と同玉 76角 同玉
66と同玉 56と同玉 46と同玉
36と同玉 26と同玉 16と36玉
26と46玉 36と56玉 46と66玉
56と76玉 66と85玉 76と94玉
85と同玉 96金 76玉 86金 66玉
76金 56玉 66金 46玉 56金 36玉
46金 26玉 36金 15玉 26金 同玉
16金 36玉 26金 46玉 36金 56玉
46金 66玉 56金 76玉 66金 85玉
76金 94玉 85金 同玉 96金 76玉
86金 66玉 76金 56玉 66金 46玉
56金 36玉 46金 26玉 36金 15玉
26金 同玉 16金 36玉 26金 46玉
36金 56玉 46金 66玉 56金 76玉
66金 85玉 76金 94玉 85金 同玉
86歩 76玉 77歩 66玉 67歩 56玉
57歩 46玉 47歩 36玉 37歩 26玉
27歩 15玉 16歩 まで 111手

以上



お知らせ

神無七郎

Windows95,98,Me をお使いの皆様へ

現在、f mはWindows2000以降(XP, Vista, 7等)向けと、それ以前(95,98,Me等。以下旧OSと呼ぶ)向けの両方を提供しています。しかし後者については現在においても利用者が少なく、Microsoft社も旧OSへのサポートを完全に打ち切っているため、今後ますます需要が低下すると考えられます。

こうした状況を踏まえ、旧OS向けのf mについてもサポートを継続するか見直しています。

もし、今後も旧OS向けのf mの継続したサポートを希望される方は、神無七郎(janacek789@ybb.ne.jp)までお知らせください。

希望者がいる間はサポートを継続し、Windows2000以降向けのf mと同様の機能を旧OS向けにも提供する予定です。

風がよく出ていると思います。」

■02-03 第3位 (2.75) 正解者5名
藤原勝博 キルケ協力自玉詰 6手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
		龍							一
									二
						王			三
									四
		角				王			五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

43角生 34銀 75龍 65飛 同龍/82飛 55角
まで 6手

作者一初手が角成だと詰まない。最終手55角を取れないのが、キルケらしい所です。

神無七郎一王が角筋にあるときは「取れない角」を使うのが定番ですが、空中にその角を打つのが本局の良さ。龍を横に使いたくなる構図も巧み。

K「これも七郎さんの解説して下さった通りで、7手目55同龍は/22角の復元がまた王手になるため無効。因みに初手43角成とやってしまうと7手目44馬の移動合が利いて詰まなくなるという仕掛けです。」

M「ただ『構図』に関してはこんな意見も。」
もず一65角の位置が、初手に75龍と王手させずに手順前後を消すための配置に見えるので、龍よりも角から動かすのが自然です。

K「私も65角配置を見て、75龍と43角の手順前後を消すための配置なんだろうと勘繰ってしまったので、もずさんに近い意見を持ったのですが、寄せられた短評を見ると、むしろ初手21龍から読んだ解答者が多かったようです。受方3連合いのインパクトと相まってC評無しの3位と高得点を記録しました。」

DD++一21龍と回って23龍に24角合まで、を考えて44が埋まらず長考。そうかこっちからもいけるのか。

たくぼん一王不動で後手が3手で3枚出現で詰上るとはキルケならではです。なかなかいい。
変寝夢（無解）一2一龍、2二合、同龍/合、2三合～4三角の線を中心にあれこれしてみましたが・・・。玉ワープだったらショック。

M「キルケはアンチキルケと違って『玉ワープ』はないのだけれど、キルケ系はいろいろなバリエーションがあるので紛らわしかったのかも。」

■02-04 余詰

小林看空 Köko協力詰 6手（受先）

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
						王			二
									三
						王			四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 香2

23玉 14香 22玉 11香成 12玉 13香
まで 6手

変寝夢（無解）一KOKOはルール自体が難しいです。FMで検討できたらいろいろ試してみたいです。

DD++（無解）一Koeko難しい……。

M「残念ながら不完全だった作品その1。」

K「原図は、受方玉を上下から挟撃する詰上りがポイントで、但し11香打は禁手なので前もって11に成香を作っておくのが好手。という筋書きだったのですが、まず初手23玉が成立していなかった上に、fmによって作意以上の絶妙な余詰順が検出されたため、急遽作意をそちらに乗り換えたのが下記の修正図。」

■02-04 修正図

小林看空 Köko協力詰 5手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
						王			二
							王		三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 香歩

14歩 24玉 33王 13玉 12香 まで 5手

もずー13歩 12玉 11香と打てれば……と考えるところで、全体を一段下げる手順が面白いと思います。

神無七郎ー13歩 12玉 11香 では最終手が反則になるので、2手余分に掛けて1段上げるわけですね。玉を下段に落とす筋ばかりを考えていたのでこれは盲点でした。もし、原図が完全ならばミニ玉鋸が実現していたわけで、その意味でも余詰は残念です。

K「Kokoで玉を詰ます際は、なるべく盤隅へ追い込むのが効率が良いだけに、24玉～33王の応酬は意外性抜群でした。修正差し替えだった事も影響して正解者は上記2人のみ。作例が少ないので何とも言えませんが、本局の詰上り（オポジション+上下または左右挟撃）はKokoの典型的な詰形の1つと思われるので、覚えておくと良いかも知れません。」

M「一方でこれまた予想通りというか何というか、誤解答はバリエーション豊富で…。」

A氏ー24歩 22玉 13香 11玉 21王 まで

A氏ー13香 12玉 22歩 11玉 21歩成 まで

B氏ー13香 12玉 23歩 11玉 21王 まで

C氏ー24歩 13玉 15香 14合 23歩成 まで

K「Kokoの感覚が掴めないという方（正常な感覚です！）は、上記誤解手順が何故不成立なのか考えてみるのも訓練の一法でしょう。因みに某担当者は作意解も余詰解も自力では何1つ発見できず…申し訳ありません。」

M「ちょっと頼りなさ過ぎだね。そんなことから02-11でも…。」

K「その話題はまた後ほどということで…。」

■02-05 第8位 (1.50) 正解者5名

藤原勝博 協力白玉詰 6手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							飛		一
									二
									三
									四
					王			王	五
									六
								桂	七
									八
									九

持駒 飛角

43飛 34玉 16角 25銀 23飛成 同桂

まで 6手

作者ーすっきりとした図面。(同一作がなければいいのですが。)桂跳ねが気に入っています。たくぼんー21桂に目が行けば一目ですが、初心向け佳作。

DD++ (無解)ー白玉詰の感覚が最後までつかめずギブアップ。最後は23同桂までなんでしようけど周りをどうやって埋めるんだろう。

変寝夢ー1六角、2五銀はすぐ見えました。最終手のための初手に少し考えさせられました。

K「初手43飛がポイントで、他の場所に打つと6手目23同桂までの形になりません。」

M「やはり作者お気に入りの桂跳ねにコメントが集中したわけけど。」

K「但し、C評無しだった02-03と対照的に、本局はA評無しで人気がありませんでした。その原因はどこにあったかというところ…。」

神無七郎ー初形で「桂でとどめ」が見えるので易しい。何かで上手くカモフラージュしないと…。

もずー最終手が見えているのが難点。玉を盤面内側において、手数を伸ばすべき素材かもしれません。

M「ちょっと31桂配置が露骨過ぎたのかな。」

K「個人的な意見ですが、昨年詰パラで出題された藤原さんの作品を幾つか解いてみた印象として、作品の軸になる駒が初形でいきなり盤上に配置されていて味消しになっているように感じたケースがありました。独自の感性は大切にしつつ、どうしたら作品の主題がより際立つか工夫していけば、一段と創作力が伸びるのではないかと感じた次第です。」

M「そういう君も出来不出来の落差が激しいタイプだから、余り偉そうな事は喋らない方が身のためだと思うよ。」

■02-06 余詰

変寝夢 対面推理将棋 6手

- (1) 6手にて後手の勝ち。
- (2) 成の手があった。
- (3) 3手目と5手目は同種駒の着手。

58王 34歩 76歩 88角成 56歩 57角

まで 6手

作者ー参加することに意義ありということで。(中略)成の条件を入れないと端角で一発なので。

K「(2)の条件がないと、14歩～13角～57角の筋が強力。また(3)の条件がないと先手の着手で手順前後が利いてしまいます。」

M「ただ、02-07と比較されたせいもあってか、作意手順に対してA評価をした解答者は現れず。」

神無七郎一両者角道を空ける常識的展開を(3)の条件で避けている。これがないか、もう少し自然な条件だったら評価を一つ上げるのですが…。

藤原勝博一解けた後では簡単に感じますが、手こずりました。

たくぼん一成の手があった条件が、限定と余詰防止の好条件でした。

もず一詰め上がりの形が限られているため易しいですが、「成の手があった」という条件によって角を取る筋だけを残すのがうまいと思います。

K「ところがお一方だけA評価で絶賛コメントを寄せて下さいました。そしてその内容に今回はこちらがビックリする事態に。」

DD++一76歩 34歩 68王 88角成 78王 77角まで6手。推理将棋って77は攻めづらいところなんですけど、対面だとこんな桂の無力化方法があるんですね。

K「DD++さんは余詰解のみの解答で、これが作意だと思われたご様子。最後の2手(78王、77角)が普通将棋感覚では絶対にあり得ない展開でかなり面白い手順なのですが、作品としては余詰失格となりました。因みに作者の変寝夢さんもこの余詰順には『脱帽』とのことでした。DD++さん、ご指摘どうも有り難うございます。」

■02-07 第4位 (2.25) 正解者5名

変寝夢 対面推理将棋 6手

- (1) 6手にて後手の勝ち。
- (2) 5手目は金を斜めに上がる。

68王 34歩 59金左 66角 38金 67角生
まで 6手

作者一条件で棺桶詰をカモフラージュできてるでしょうか？

もず一5手目を省けば、5手で同じ詰め上がりが可能なところ、その5手目を条件に付け加えることですべて限定できているのがすばらしいですね。

たくぼん一5手だと分かりやすい手順だが、6手だと金を斜めに上がる条件に意識が行って感

わされる。

K「変寝夢さんの対面推理将棋第2弾。作意に関しては割合素直だった前局と比べ、こちらは5手目に思わぬ金上がりがあったり、最終手で角が直進したりと捻りが利いています。」

M「対面推理将棋では、玉の斜め方向の退路を塞いだ形で頭角というのが1つの決めパターンになるようだね。」

DD++(無解)一推理将棋が解けなかったのはくやしい！

藤原勝博一3手目から最終手までがおもしろいです。

神無七郎一角が真っ直ぐに進む対面らしい展開。駒余りの詰上りも推理将棋らしい所。

K「今回は余詰も出てしまいましたが、それは新分野への挑戦の裏返しでもあります。PG系に限らず、変寝夢さんにはこれからいろいろなルールの創作にチャレンジして欲しいと思います。」

■02-08 第7位 (2.00) 正解者4名

たくぼん マドラシ協力自玉詰 6手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
				銀					五
									六
				王					七
									八
				王					九

持駒 飛

46銀 66玉 57銀 48銀 69飛 57玉
まで 6手

作者一マドラシ入門編ということで……。一旦遠ざかる2手目が分かれば楽勝でしょう。

M「確かに最初の2手が見えれば後は『楽勝』だったろうけど、皆さんしっかり初手飛打ちを読んだみたいですよ。」

DD++(無解)一飛打飛合を銀で遮って復活させる手筋があるんだろうなあ、と考えてみるもうまく行かず。この手筋じゃないのか……。

変寝夢(無解)一9七飛、8七角、同飛、8九飛、6六角、8八角まで・・と書こうとして玉が取られることに気がついた。なぜ何週間も前に気がつかないのか……。

藤原勝博—なかなか解けずに困りました。初手で飛車を打つから失敗だったのだなあ。もず—基本手筋ですが、初手飛打から読んだため、作意に入るまで時間がかかりました。神無七郎—マドラシの基本手順なのですが、飛を使う紛れを考えたため結構てこずりました。協力自玉詰で一旦玉が遠ざかる手が入るのが良い。

K「つい持駒の飛に目が行きますが、本当の主役は55の銀。46（66でも結局同じ）～57銀と活用し、4手目48銀の攻防手を引き出します。5手目にやっと飛を打ちますが、これは王が69へ逃げる余地を消すためだけの手で、実は香でも間に合う役回りなのでした。」

■02-09 第1位 (3.00) 正解者4名

小林看空 Kōko協力自玉詰 6手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						銀			一
			王					飛	二
									三
									四
									五
								馬	六
									七
									八
					桂	王			九

持駒 桂2

73桂 42角 74桂 51玉 61桂成 75角
まで 6手

作者—(fmの力を借りずに)完全作として世に出せたことを感謝。

M「初形から12飛が玉に当たってるが…」

K「62玉の周辺8枱に何も駒が無いので62飛成は禁手です。因みに初手74桂と打っても王手になっていません！」

M「そこで持駒の桂を53か73に打つわけだ。」

K「作意は初手73桂なのですが、何故53桂ではいけないかというと、2手目に42角と合駒をして、この角を6手目に75へ飛び出したいからです。3手目は74桂ですが、今度は73桂があるのでこの手が王手になる仕組み。5手目も肝心な所で、同じようでもうっかり62桂成としてしまうと…」

M「おっと、74桂が居なくなっちゃったから75角と出られないわけだ。」

K「5手目61桂成が一瞬王手なのですが、6手

目75角とされてみると、42角が居なくなったので51成桂の王取りができません。一方攻方王は75角の睨みから逃れる方法もなく（28または29王は反則）、かといって合駒といっても57桂はやはり禁手というわけで、意外と受けがありません。」

M「新ルールながら見事な構想で、オールA評価の優勝！」

もず—合駒を打って、玉が移動し、合駒が動いて詰み、というのは6手の協力自玉詰の基本パターンですが、桂を5筋から打ってはいけない理由付けが面白いと思います。

藤原勝博—最初は2手目を42飛と考えましたが、49飛成は王手になっていないと分かり考え直しました。合駒は42角でした。桂の打ち場所も限定されているのですね。十分に楽しめました。

たくぼん—王手は限られているが、慣れないルールでなかなか要領が掴めない。角打～角移動に気付いてからもそこに持っていくのが大変。

神無七郎—最後の75角を可能にするための「足場作り」が面白い。ルール名のKokoは英語ではContact Chessと言うそうですから、日本で使う場合は「接触詰」と訳してしまっても良いと思います。

K「呼称問題は今後の成り行き次第ですが、個人的にはルールの特性を直感的に把握し易い名称があれば良いと思っています。」

■02-10 第1位 (3.00) 正解者5名

たくぼん アンチキルケ協力自玉詰 6手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
								王	二
									三
									四
									五
						龍			六
				王					七
									八
角								馬	九

持駒 なし

37龍 68玉 28龍 同角生/22角 77角
同角成/22馬 まで 6手

作者—普通ですね。

M「12王の配置からして、22馬まで詰みそう

な事は誰にでもわかる。」

K「解図時に少々意表を衝かれはしたものの、それほど印象は強くなって、私も失礼ながら『普通』だと思ったのです。が。」

M「まずは龍を37~28と2段活用するわけだが、そこで我慢して一旦同角生/22角とするのが良い手なんだね。」

K「いきなり同角成/22馬とすると99角の利きが強くて詰みません。1度目は不成にしておいて、5手目から77角、同角成/22馬とすれば、今度は99角が消去できたので詰んでいます。角を早く成り返りたい解答者心理が強く働いている状況なだけに盲点になり易かったようで、見事オールA評価。02-09(看空作)と並んでの優勝となりました。」

神無七郎一 1枚の角を成/生と使い分ける手順が見事。これは飛にも応用できると思います。

DD++-22に馬が戻っての詰みが見え見えですが、一度不成で戻るとは思わなかった。

もず一いったん22に不成で戻す手がなかなか見えませんでした。

藤原勝博一少しは慣れたはずのアンチキルケですが、解くのに時間がかかりました。4手目は生角で6手目にとどめの馬。良く出来た作品だと思います。

変寝夢(無解)一9九の角さえいなければ、玉を5九近辺に誘い、1九角の利きに龍を捨て同角成/2二馬で終了だぜと思ひ、何日も経ったが実現できなかった。キルケ系は苦手です。

M「変寝夢さん、惜しくももう一歩でした！」

■02-11 不詰

小峰耕希 強欲協力詰 6手(受先)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
								龍	二
									三
									四
									五
									六
	龍		科						七
王						王		飛	八
			飛						九

持駒なし

M「いよいよ例の問題作の番になった。」

K「上図が出題図でしたが、強欲なので初手59桂成の一手になっていて不詰なのを見落とし

ていました。申し訳ありませんm(_ _)m」

M「67桂は本当は余詰防止駒だったのかな？」

K「初手から79角、27王、78銀生、同飛、89玉、79飛までのような筋を防いでいます。ところが79への利きばかりに気が取られて、67桂が59飛にも当たっている事に全然気が付いていなかったのが失敗の原因…。」

M「ありや。で、修正したのが次の図。」

強欲協力詰 6手(受先)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
								龍	二
									三
									四
									五
									六
	龍		科						七
王						王		飛	八
			飛						九

持駒なし

21香 29王 28香 同飛 88馬 99香
まで 6手

藤原勝博(無解)一どのような形で詰むのかが全然見えません。

DD++(無解)一あれ、初手59桂成しかないのになんで受先?と思ったらそういうオチでしたか。修正後のにも挑戦したもののギブアップ。

M「しかし初手変な所に香を打つね。」

K「収束が見えないと絶対に打てない香なので、これが解図の鍵になったと思います。これはどういう意味付けかと申しますと…。」

もず一普通の5手の協力詰なら、玉が動いてから香合を取って88合99香までとなります。強欲で88合を取らなくて良いようにピンを利用するというのは、ルールを逆手に取った面白い構想だと思います。今回の中で一番好みの作品です。

M「つまり21香が28飛+29王をピンしているので6手目88同飛が封じられて、代わりに99香を打てるようになるわけね。」

K「初手21香は22馬と連動してバッテリーを作っているのです。一方18飛と38王は最初はバッテリーをなしていましたが、詰上りではピンされる存在に転じています。尚、もずさん以外の作意解者は次のお二方でした。」

たくぼん一逆王手を利用した強欲駒取り封じ。

これは面白い。発想が見事だ。今回のトップでしょう。

神無七郎一ピンを利用して「強欲」な手を防止するのは新手筋だと思います。個人的には本コンクールで一番面白く感じた作です。

K「皆さんから過大にお褒め頂いて恐縮なのですが、過去には強欲という中・長編作品が圧倒的に多くて、15手以下の発表作品は4つしかないようです。それも象形趣向を成立させるための強欲条件付加か、または強欲協力詰の基本手筋の提示といった色合いが強く、その中にあるは本局は異色の作例になっているかも知れません。」

M「因みにこれ、90度回転して縦型にするとどうなる？」

K「実際、始めは次のような構図を思い描いていたのです。」

参考図 強欲協力詰 6手 (受先)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							王		一
						馬			二
									三
									四
								香	五
									六
							王		七
	金								八
								香	九

持駒 なし

作意：98飛 18王 28飛 同香 22馬 11飛
まで 6手

K「こちらの方が見た目が軽くて良いのですが、初手31金以下の強力な余詰筋があり（31金、16王、22飛、同香成、同金、11飛までが一例）、これを防ぐ適当な方法が思い付かなくて断念せざるをえませんでした。当初は横型の方が盤上の飛2枚が暴れ回って余詰むかと予想していたのですが、こちらは前述の67桂配置で意外にあっさり解決。」

M「縦型案は盤上に金4枚置いて品切れにすれば完全作になるようだけど、それじゃいくらなんでも不細工過ぎるよね。」

K「02-11の修正図は一応完全ですが、配置が重い気がするので、どなたかもしもっと簡素な図で表現出来たら教えて下さい！」

■総評

たくぼん一超難解作もなく、新しいルールを含めいろいろなルールで楽しめました。普通の協力詰がなかったので一般の方には取っ付きにくかったかもしれませんね。

作者当て

02-01：変寝夢

02-02：神無太郎

02-03：藤原勝博

02-04：小林看空

02-05：藤原勝博

02-06：神無七郎

02-07：神無七郎

02-08：たくぼん

02-09：小林看空

02-10：たくぼん

02-11：小峰耕希

推理将棋が誰だか分からないなあ。

M「推理将棋以外は流石的中率。」

K「今回は『6手以下』だったので、純粋協力詰には向かなかったかも知れません。次回以降のF短コンでは、もう少し手数制限を緩和して、純粋協力詰のみ募集する方式も選択肢の1つかと考えています。」

神無七郎一上限6手ということで、予想通り白玉詰と受先形式が多かったですね。レトロの長手数を投稿して「6手以下だ」と主張する担当者泣かせの人とか、4手で挑戦する勇者が出てくるかとも思ったのですが、意外と素直な作品が多かったと思います。

K「どの程度ひねった投稿が来るかは、現実的に作品を募集してみないとわからない世界なので、細かい所は問題が発生した時に解決すれば良いと開き直す事にしています。今回も本邦初公開なルールに随分と苦戦しましたが、次回以降も挑戦的な作品歓迎します。」

M「但しK君が担当している間は、作品検討能力は絶対に期待しないようにしましょう。」

変寝夢一干な仕事なので時間がなかったですが、それなりに頑張ったつもりです。他の月だったらもっと解けてた？、それは聞かないで下さい（苦笑）。

DD++—42号に同時掲載されていた年賀詰とあわせてフェアルール初挑戦。とりあえず眺めてみて1問解けるとなんとなく他のにも手を出したくなるものですね。解けたのは半分以下でしたが楽しませてもらいました。

K「何ととっても短コンですから、余裕で全解の常連さんには勿論、初・中級の方々にも楽

しんで頂ければ、それが一番だと思っています。次回以降も宜しくお願いします。」

成績（作品）

	誤解	無解	A	B	C	無評価	平均	順位
09.小林看空	0	2	4	0	0	0	3.00	1
10.たくぼん	0	1	4	0	0	1	3.00	1
03.藤原勝博	0	1	3	1	0	1	2.75	3
07.変寝夢	0	1	1	3	0	1	2.25	4
01.神無七郎	0	0	2	3	1	0	2.17	5
02.神無太郎	0	0	1	5	0	0	2.17	5
08.たくぼん	0	2	0	3	0	1	2.00	7
05.藤原勝博	0	1	0	2	2	1	1.50	8
04.小林看空	0	0	0	0	0	0	0.00	余詰
06.変寝夢	0	0	0	0	0	0	0.00	余詰
11.小峰耕希	0	0	0	0	0	0	0.00	不詰

成績（解答）

【8題全題正解】

たくぼん 神無七郎 もず 藤原勝博

【4題】変寝夢 DD++

M「ほら、2人でやったら片付いたじゃないか。」
K「それはまあ、何とか片付くには片付いたけど、『対話形式』というよりは『雑談形式』だったなあ。お見苦しい点がございましたら何卒お許し下さい。」

M「意外と楽しかったから次回も乱入しようかな。じゃ、また！」

K「いやあ、それは…」

以上

(担当：小峰耕希)

Fairy TopIX2011投票要項

Fairy TopIXとはウェブサイトで発表されたフェアリー詰将棋・推理将棋・プルフゲームを対象にお気に入り投票を行い、上位作に授賞するものです。Fairy TopIX2011は2011年にウェブサイトで発表された作品の中からお気に入り投票によって選ばれます。

【投票宛先】

WFP事務局(たくぼん)宛にメールにてお願いします。 takuji@dokidoki.ne.jp

【スケジュール】

投票開始：2012年2月号発行日

投票締切：2012年3月31日

結果発表：WFP4月号(46号)

【対象】

2011年にWeb Fairy Paradise誌に掲載された作品(過去作の紹介作は除く)。なお詳しくは後日発行予定の対象作品一覧で確認下さい。

【部門区分】

フェアリー詰将棋

短編部門：～15手

中編部門：16～49手

長編部門：50手～

推理将棋・プルフゲーム部門

(手数区分なし)

以上4部門となります。

【投票の仕方】

お気に入り投票として実施しますので何作投票していただいても構いませんが、お気に入り上位3作には1位～3位までの明記下さい。

投票の際には集計間違いを防ぐため下記の項目を記載いただくと助かります。

- ・ 部門名
- ・ WFP何月号(または何号)
- ・ 作品展名(またはコーナー名)
- ・ (あれば)作品番号
- ・ 作者名&ルール名&手数
- ・ 投票作品へのコメント(部門別及び全体通してのコメントも出来ればお願いします)

*なお後日発行の対象作品一覧には通し番号を打ってますのでそちらの記載でも構いません。

【投票集計方法】

投票順位に応じて作品毎に下記ポイントを加算し、各部門での合計ポイント順に授賞します。

1位：5点、

2位：3点

3位：2点

上記以外：1点

各部門得票数上位3作までが授賞となります。作者に授賞コメントをお願いすることになりますのでご協力よろしくお願いします。

☆選考ではありませんので、全部の作品を見なくても構いません。お気に入りの作品をお好きなだけ書いて投票いただければ結構です。1票でも得票がある作品はすべて4月号に掲載いたします。今年もたくさんの投票をよろしくお願いいたします。

推理将棋第5 1回出題解答 担当：DD++

出題： 平成 23 年 12 月 4 日
 解答締切： 平成 24 年 1 月 20 日

推理将棋第5 1回出題 担当 DD++

今回はいろいろとご迷惑をおかけしました。
 51-1 での注意書き不足、51-3 の条件間違い、
 挙句の果てに 51-3 に締め切り当日に余詰が見
 つかる始末。日本語を書く時には十分注意しな
 ければならないということを再認識させられま
 した。2012 年の出題ではそのようなことがない
 よう気をつけてまいります。

5 1-1 初級 詰工房有志作

龍を詰ましてみよう 7 手

「よし、後手番だけど龍も作ったし有利に進み
 そうだぞ」

「でも 7 手目にこうしてその龍が詰むけど」

「げっ、あの 6 筋の手はそういうことか……」

さて、7 手目まではどんな将棋だったのだろう
 か？

(条件)

- ・ 7 手目に後手龍が詰んだ
- ・ 6 筋の着手あり

※「龍が詰んだ」とはここでは取りのかかって
 いない後手龍に 7 手目に取りをかけ、8 手目に
 どんな着手をしても 9 手目に龍が取れることを
 意味します。

出題のことば (担当 DD++)

6 手目に龍を作れる場所は 2 箇所です。

追加ヒント：

6 手目に飛が成れる場所は 37 か 47。正解は
 どっち？

47 の龍に飛を縦に利かせて詰めましょう。

推理将棋 5 1-1 解答

▲ 7 六歩 ▼ 4 四歩 ▲ 同 角 ▼ 4 二飛

▲ 6 六角 ▼ 4 七飛成 ▲ 4 八飛 まで 7 手。

詰上り図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	爵	季	王	季	爵	科	皇		一
								馬		二
歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	歩		三
										四
										五
			歩	角						六
歩	歩		歩	歩	龍	歩	歩	歩		七
					飛					八
香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香		九

持駒 歩

龍をどう詰めるかより、この短手数で龍をどう
 やって作るかという問題。先手の飛車を取って
 打つのは到底間に合わないので自飛車を成るわ
 けですが、邪魔になる歩をどうやって消すかが
 ポイントです。

真っ先に思いつくのは「76 歩、32 飛、33 角、
 同飛」の出だしでしょう。これなら 6 手目に 37
 飛成とできますね。しかし、ここは桂が既に利
 いているところなので「7 手目に先手駒の利き
 がない後手龍に対して取りをかけ」を実現でき
 ません。

では他に同じように歩を先手角で取れると
 ころは、と探すと見つかるのが 4 筋。「76 歩、
 44 歩、同角、42 飛」の出だしで、5 手目に角
 が動けば 6 手目に 47 飛成とできます。この龍
 が動ける場所は 4 筋の縦移動と 57。とすれば 7
 手目に 48 飛で縦利きを潰してしまうのは自然
 な発想ですね。あとは 5 手目の角移動で 57 を
 潰すために 35 角か 66 角ですが、条件から 66
 角の方が正解となります (ここで 35 角とした
 誤答が 1 名)。

当初の注意書きだと、「76 歩、32 飛、33 角
 成、62 玉、43 馬、37 飛成、61 馬」で、8 手目
 にどんな手を指しても (といっても同玉しかあ
 りませんが) 9 手目に 37 桂で龍を取れて表面
 上は条件に合致してしまいます。さすがにこれ

を"7手目に"龍を詰めたと考える方はいらっしゃらないとは思いますが、念のため注意書きに加筆させていただきました。ご指摘いただいた中村雅哉さん、ありがとうございました。

それではみなさんの短評をどうぞ。

斧間徳子 「客寄せの簡単な問題。」

■龍絡みでこれ以上簡単な問題はほぼ作れないかと。

NAO 「強力な龍もたったの7手で詰むとは驚きました。」

■私も最初は10手くらいかかるだろうと思いました。

ron 「会話文も棋譜も普通の指将棋に見られそうな光景。普通すぎて推理将棋らしくない!？」

■しまった、5手目を35角にしておくんだった(笑)

チャンプ 「そんなに驚かなくてもいいとは思いますが、やや先手有利な局面でしょうか(笑)」

■どうなのでしょう。私には判断がつきません。

中村雅哉 「これは易しい。新春問題はかくありたいと思います。」

■龍絡みで簡単な問題は貴重です。

たくぼん 「こんなに簡単に龍が捕まるとはびっくり！最短ですよ」

■龍を作れる最短が6手目なので、詰めるのはこれが最短です。

宮谷保可楽 「飛車を3筋から侵入させるのは、29桂があつて不可能だから、4筋からということになる。66角は57を守るため。」

■解説を限界まで短くするとこうなりますね。

飯尾晃 「詰んだという感じはしないけどね。」

■3-1の歩の詰め方よりはまだ受け入れやすいのではないのでしょうか？

変寝夢 「6六角が一石二鳥の妙手」

■この手順を聞いたときは本当にうまい手だなあと思いました。

渡辺 「すごい急戦ですね。」

■5手目53角成としていたらもっとすごいことに。

鈴木優希 「5七を角で塞ぐのが味あります。」

■推理将棋ではあまり見ない妙手。

みや 「やさしい、うれしいお年玉でした。秒殺でした。」

■普段からこれくらいのを1題出せばよいのですが。

はらたつ 「66角の限定ですね。」

■ここも自然限定すればなおよかったのですねえ。

テイエムガンバ 「龍が詰んだといっても『げっ』というほど状況が悪くなっていない気がするのは私だけでしょうか？」

■打ち手が上手い人と思うなかれ。へボ将棋なら龍と飛で斬り違えたら一大事です。

S.Kimura 「最終手に少し考えさせられました。別に、安い駒で詰ませなくても良かったのですね。」

■これが48龍だったら自分の龍で龍取りをかけるのはどうなんだという話になりそうですね。

占魚亭 「駒を詰ます問題とは珍しいですね。」

■珍しいというより、3-1でほとんど発掘済みなんですよ。

鈴木康夫 「これは簡単でした。」

■4題あればこれくらい簡単なが1題はないと。

はなさかしろう 「これは...44歩パックマン戦法の変化手順？ なつかしいですね！」

■なんと。調べてみたら戦法として確立されているんですね、びっくり。

正解：20名

飯尾晃さん S.Kimuraさん 斧間徳子さん
館長さん 鈴木優希さん 鈴木康夫さん 諏訪冬葉さん 占魚亭さん たくぼんさん チャンプさん テイエムガンバさん NAOさん 中村雅哉さん はなさかしろうさん はらたつとさん 変寝夢さん みやさん 宮谷保可楽さん ronさん 渡辺さん

5 1-2 中級 DD++作

24年の龍の年

11手

「今年の指し初めは縁起がよかったよ」
 「どんな将棋だったんだい」
 「24年の龍年の1月1日に指した将棋が、24龍まで11手の詰みで勝ったんだよ」
 「へえ、それはおめでたい話だ」
 「相手もゲンを担いだのか最初に24に着手したよ」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・ 24龍まで11手で詰んだ
- ・ 後手は最初に24に着手した

出題のことば (担当 DD++)

この先手龍の作り方はちょっと珍しいかも。
 追加ヒント：

24龍の利きの中で最も狭い場所に後手玉を移動させましょう。先手は5手目、後手は4手目からそれぞれ1枚の駒しか動かしません。

推理将棋 5 1-2 解答 担当 DD++

- ▲ 2六歩 ▼ 2四歩 ▲ 2五歩 ▼ 4二玉
- ▲ 2六飛 ▼ 3二玉 ▲ 3六飛 ▼ 2三玉
- ▲ 3三飛成 ▼ 1四玉 ▲ 2四龍 まで11手。

詰上り図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香	
二		飛						馬		
三	歩	歩	歩	歩	歩	歩			歩	
四								龍	王	
五								歩		
六										
七	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	
八		角								
九	香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香	

持駒 歩2

こういう最終手をはっきりしている問題は最終玉位置を絞るのが定石。24龍までとなると

その選択肢は多いようですが、少し考えると一気に狭まります。

まず後手は24歩を除くと4手しかないので、五段目より上に後手玉が上がることはありません。13と22もそこにある駒をどかす手があると玉移動が間に合わないのでダメ。四段目の横利きも、44以遠は最後に歩突きで合駒ができるのでこれもなし。残りは23、33、14、34の4箇所。いずれも玉移動に3手以上かかり、24と接する位置です。

ここまで絞って今度は先手を考えてみましょう。飛車を取って成るには、後手に74歩を指してもらって「76歩～55角～82角～飛打～飛成～24龍」しかありません(後手42飛は玉移動の邪魔になるので指せない)。しかしこれだと龍に紐がつかないので最後に24同玉と応じられて詰みません。つまり成るのは自飛車。

敵角のアシストが使えない場合、一番速い自飛車成は2筋の歩をぶつけて25同飛から7手目23飛成ですが、8手目32玉が指せなくなるのでダメ。となれば5手かけて成るしかなく、先手は「26歩～25歩～26飛～N6飛～N3飛成～24龍」が確定します。Nはもちろん1か3。そうなると10手目23玉とは指せないのでもずこれは消えます。そして9手目13飛成に10手目33玉や34玉は4筋方面への逃げ道が塞げないのでやはりダメ。残りは9手目33飛成に10手目14玉の形だけで、これが正解となります。

唯一14玉だけが逃げ道塞ぎの必要性がない場所だということにスッと気づけた方はここまで考える必要なく瞬殺だったことでしょう。

それではみなさんの短評をどうぞ。

斧間徳子「先手の飛車は見たことのない動きで新鮮。条件も巧み。」

■飛成だけに5手かけるということは詰めるのに11手以上かかりますから、これを使う作図はなかなか大変。

NAO「きれいな年賀詰。24龍迄11手詰を出されてしまいました。年賀詰のネタを探さないかね。」

■24龍まで11手の時点でこの手順しかありませんから今年は特別バッティングしやすい年だったと思います。

ron「ゲンを担いだわりに全く勝とうとする気

の無い後手。」

■確かに。

チャンプ 「飛車を奪うことばかり考えて苦戦。そういえば先手にも飛車があった（笑）」

■最終龍位置が微妙なので、後手が飛取りをアシストしていると肝心の玉がいい位置に行けません。

中村雅哉 「簡素で考えやすく、条件も今年の年賀作にピッタリ。」

■強いて言うなら、24龍まで11手がこの手順しかないことが残念。いろいろな人の24龍までが並べばもっとよかったんでしょうけど。

諏訪冬葉 「33に9手で成れるんですね」

■「9手目までに33に飛が成った」で大きく4通りの手順がありますね。さて、それぞれどんな手順でしょう。

たくぼん 「見事にすり抜ける飛（龍）と玉。プルフゲームみたいだ。」

■言われてみればけっこうギリギリのタイミング。

宮谷保可楽 「2手目は24歩しかなく、最後も24龍までなのだから、詰ますとすればこんな感じだろうな、と思ったらその通りだった。3筋から飛車を侵入させるあたりは面白い。」

■鋭い読み、お見事。

飯尾晃 「25歩を残しておかないといけないんですね。」

■道を開けるためについた歩がもう一度活躍する瞬間。

変寝夢 「玉の詰む位置の見当をつけたらすぐだった。緩急自在の先手の寄せでしたね」

■果たしてこれは緩急自在と言っていいのでしょうか（笑）

渡辺 「最初は玉を3筋にやってみました。1筋と

気づいて解決。」

■3筋の方が近いですが、後手に1手だけ余っても使い道がありません。

鈴木優希 「これは年賀詰にピッタリ。1四で詰むというのが意外でした。」

■おっと意外ですか？ たしかに見落としそうな場所ではありますが。

みや 「一回飛車が3筋にまわるんですね。珍しい形でした。」

■普通はこうなったら24歩も突いちゃうでしょうからなかなか登場しない動き。

はらたつと 「後手の24歩の意味が、手順前後、玉の通り道確保、最後取らせるため、と大活躍でした。」

■なるほど、突いたからにはここを玉が通るに違いないという裏読みが効かないんですねこれ。

テイムガンバ 「龍の利きが強い、というイメージがあるだけに1四まで玉が動くとは、と思いました。」

■いくら龍が強くても、こんな中段で短手数で詰ませるには端へ追いやるしかないのです。

S.Kimura 「先手の龍の作り方は、ハム裸玉（ハム将棋でハムが裸玉）でよくやるので、お馴染みでした。」

■裸玉の下手だとたしかにこの作り方は有効ですね。

占魚亭 「後手番角頭歩ですか（笑）。」

■推理将棋においては角頭歩はわりと頻出ですね。

鈴木康夫 「飛車が歩の後ろを回るのは手数が足りないと思い、見えませんでした。」

■急がば回れ、なんて言葉がぴったり。

はなさかしろう 「なるほど11手でぴったり。手順も面白くて素晴らしい年賀推理将棋でした。」

■来年は25何かまで11手、はたしてどんな手順があるのやら。なまじ9手からあるので逆にやりづらいかも。

はてるま「この条件でしっかりまとまっているところが凄い。ある意味奇跡的。よくぞ発見されました。新年早々おめでたいことですね。」

■実は1年以上前から温めてありました(笑)。他の方から同じ問題の投稿があったら変えるつもりでいたんですが、幸か不幸かそのようなことはなく。

正解：21名

飯尾晃さん S.Kimuraさん 斧間徳子さん
館長さん 鈴川優希さん 鈴木康夫さん 諏訪冬葉さん
占魚亭さん たくぼんさん チャンプさん
テイエムガンバさん NAOさん 中村雅哉さん
はてるまさん はなさかしろうさん はらたつとさん
変寝夢さん みやさん 宮谷保可楽さん ronさん 渡辺さん

5 1-3 上級 館長さん作
連続24回歩の着手 48手

「お互いに最初は同じ筋にあった駒を動かしたあの将棋すごかったね」

「後手は歩の着手24回のみで、成ることもなく20回の王手で詰ませたよ」

「後手は連続して同じ段の駒は動かさなかったんだ」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・後手は歩の着手24回のみで、20回の王手で先手玉を詰ませた
- ・初手と2手目は同じ筋にあった駒の着手
- ・後手が連続して同じ段にある駒を動かすことはなかった
- ・成る手なし

出題のことは(担当 DD++)

暗算だとうっかりしやすいところがあるので

気をつけて。

追加ヒント：

先手玉を端五段目に移動させた時に後手歩が三段目に9枚揃っていれば、そこから怒涛の18連続王手！7手目と10手目に待ち手のような手を入れつつ13手目に15玉へ移動、歩を突く開き王手を見逃さないように。

推理将棋 5 1-3 解答 担当 DD++

- ▲3六歩 ▼3四歩 ▲4八玉 ▼3五歩
 - ▲3七玉 ▼3六歩 ▲3八玉 ▼3七歩不成
 - ▲同玉 ▼3二歩 ▲2六玉 ▼3三歩
 - ▲1五玉 ▼1四歩 ▲1六玉 ▼1五歩
 - ▲2五玉 ▼2四歩 ▲2六玉 ▼2五歩
 - ▲3五玉 ▼3四歩 ▲3六玉 ▼3五歩
 - ▲4五玉 ▼4四歩 ▲5五玉 ▼4五歩
 - ▲3三歩 ▼5四歩 ▲5六玉 ▼5五歩
 - ▲6五玉 ▼6四歩 ▲6六玉 ▼6五歩
 - ▲7五玉 ▼7四歩 ▲7六玉 ▼7五歩
 - ▲8五玉 ▼8四歩 ▲8六玉 ▼8五歩
 - ▲9五玉 ▼9四歩 ▲9六玉 ▼9五歩
- まで48手。

詰上り図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香	一
	飛						角		二
						歩			三
									四
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	五
王									六
歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	七
	角						飛		八
香	桂	銀	金		金	銀	桂	香	九

持駒なし

おもちゃ箱過去最長の長編です。何手からを長編というのか明確な規定はありませんが、30手以上の出題はこれが初。繰り返し趣向は長編の中でも手がつけやすいので、二度のヒントでなんとかなるかと思ったのですが撃沈。かなりの正解者数減となってしまいました。

こういう長編では、まず手数そっちのけでどういう機構で手順を構成するのか探るのがポイントです。この問題の場合「歩の手だけ」「同じ段が続かない」「連続王手」となる手順はどうやれば実現できるか考えるわけです。答えは簡単

ですね。1枚の歩を2度ずつ突いていく形でそれにあわせて玉に動いてもらうわけです。もちろんこれが長く続けば続くほど正解には近づくでしょう。

ではこれを最長に繰り返すにはどうすればいいでしょう。端から逆の端まで続ければ35手かけて18連続王手がかけられそうですね。つまり「13手目15玉」「そこまでに王手2回」「三段目以外に後手歩がない」という状況を作ればいいわけです。

問題は王手2回をどうかけるか。複数の歩を動かすと復元が大変なので、同じ歩を六段目と七段目に突いて連続王手するくらいしか方法がなさそうです。とすると先手玉は七段目から八段目に下がってまた同じ七段目に戻って歩を取るという動作が必要になります。これで13手目15玉に間に合うのは「36歩～48玉～37玉～38玉～37同玉～26玉～15玉」の手順だけ。

その間後手は「34歩～35歩～36歩～37歩不成～何か～何か」。さて10手目と12手目は完全に待ち手です。後の手順の邪魔にならない歩の手なら何を指してもいいのですが、よく探すと32歩と打って33歩と復元する手しか残されていません。なのでこれで完成、14手目14歩から48手目96歩まで順に追ってしまい！

……という誤答をした方が一名。私も最初暗算してうっかりしました。44歩、46玉、45歩としたところで、55玉は角が利いているので指せないのです！じゃあ逆からならどうだ、と76歩以下15歩までという誤答が一名。こっち側だと飛の紐がないので最後に25玉と逃げられます。ではどうすればいいのか。

条件は「歩を突く手だけ」「ひたすら王手」であり、歩が直接の王手をかける必要はないことに気がつくかどうか。つまり、55に角が利くならこれを開き王手として利用してやればいいという発想です。44歩に対して46ではなく55玉と逃げ、45歩の開き王手に33歩合！！以下54歩から再び二段追いを再開して見事条件達成となります。

と、ここで終わればよかったのですが、なんと解答締め切り当日にお二方から相次いで余詰指摘。少し長くなってしまいますがご紹介させていただきます。

鈴木康夫さんよりご指摘の手順

- ▲ 2 六歩 △ 2 四歩 ▲ 4 八玉 △ 2 五歩
- ▲ 3 八玉 △ 1 四歩 ▲ 2 七玉 △ 2 六歩
- ▲ 1 六玉 △ 1 五歩 ▲ 2 六玉 △ 3 四歩

- ▲ 1 六歩 △ 2 五歩 ▲ 1 七玉 △ 1 六歩
 - ▲ 1 八玉 △ 1 七歩不成 ▲ 2 七玉 △ 2 六歩
 - ▲ 3 六玉 △ 3 五歩 ▲ 4 五玉 △ 4 四歩
 - ▲ 5 五玉 △ 4 五歩 ▲ 同 玉 △ 4 四歩
 - ▲ 5 五玉 △ 5 四歩 ▲ 5 六玉 △ 5 五歩
 - ▲ 6 五玉 △ 6 四歩 ▲ 6 六玉 △ 6 五歩
 - ▲ 7 五玉 △ 7 四歩 ▲ 7 六玉 △ 7 五歩
 - ▲ 8 五玉 △ 8 四歩 ▲ 8 六玉 △ 8 五歩
 - ▲ 9 五玉 △ 9 四歩 ▲ 9 六玉 △ 9 五歩
- まで48手。

後手が歩を2枚取ることで44歩46玉45歩の後に同玉44歩と挟んで角筋を止めることを可能にしています。28手目と30手目に同じ段に連続着手しているのですが、条件が「後手が連続して同じ段にある駒を“動かす”ことはなかった」なので、28手目が駒打ちであるため問題ないですね。

はなさかしろうさんよりご指摘の手順

- ▲ 3 六歩 ▽ 3 四歩 ▲ 4 八玉 ▽ 3 五歩
 - ▲ 3 七玉 ▽ 3 六歩 ▲ 同 玉 ▽ 5 四歩
 - ▲ 3 三歩 ▽ 3 二歩 ▲ 2 五玉 ▽ 2 四歩
 - ▲ 3 四玉 ▽ 3 三歩 ▲ 2 四玉 ▽ 2 三歩
 - ▲ 1 五玉 ▽ 1 四歩 ▲ 1 六玉 ▽ 1 五歩
 - ▲ 2 五玉 ▽ 2 四歩 ▲ 2 六玉 ▽ 2 五歩
 - ▲ 3 五玉 ▽ 3 四歩 ▲ 3 六玉 ▽ 3 五歩
 - ▲ 4 五玉 ▽ 4 四歩 ▲ 5 六玉 ▽ 5 五歩
 - ▲ 6 五玉 ▽ 6 四歩 ▲ 6 六玉 ▽ 6 五歩
 - ▲ 7 五玉 ▽ 7 四歩 ▲ 7 六玉 ▽ 7 五歩
 - ▲ 8 五玉 ▽ 8 四歩 ▲ 8 六玉 ▽ 8 五歩
 - ▲ 9 五玉 ▽ 9 四歩 ▲ 9 六玉 ▽ 9 五歩
- まで48手。

あらかじめ54歩と突いておき、44歩に対して56玉55歩と筋を一つ飛ばしてしまう方法ですね。15玉にたどり着くまでに王手が4回必要になるのですが、33で歩の受け渡しをすることでそれを実現しています。鈴木さん解と同じく16手目が駒打ちなので条件違反ではありません。

探してみると同じように駒打ちで制限を回避する手順が見つかること見つかること。今回の余詰見逃し、罪が大きいのは私が検討時にもそのうちのいくつかをちゃんと見つけていたことです。なぜか「連続で同じ段の着手をしなかった」で勘違いしたまま検討してしまったので、条件に不一致と誤って判断してしまいました。最初の条件誤記とあわせ、言葉の解釈の違いへの配慮が著しく欠けておりました。館長さん並びに解答者の皆様に深くお詫びいたします。

それではみなさんの短評をどうぞ。

斧間徳子 「年の終わりを飾る傑作。32歩～33歩として初形を再現する手順はすばらしい。27手目から危うく46玉、45歩、55玉、とやるところでした。」

■やはりその間違いは絶対にやりますよね。

NAO 「オリジナルの中村さん作の余詰順？を活かした年賀詰。44歩～54歩のところを捻った手順。」

■その余詰順にさらに手を加えた手順ですね。この開き王手はハッとします。

ron 「いやー48手は！こんな問題もあるのだなあと驚きました。手数は長くとも最終形の想像は容易ですので解けましたが、△3二歩に気づくまで時間がかかり、苦勞しました。手数はあっても条件を上手く満たせなかったり、手数を超過してしまったりして。」

■手数を減らそうと思うとこういう遠回りな手は見つけにくいものです。

チャンプ 「これはいい作品ですね。単純な後手の動きとは対照的な先手の巧妙な手順に感心。」

■38玉といい、55玉といい、33歩といい、先手はかなりがんばっています。

中村雅哉 「詰パラ2009年11月号推理将棋コーナー#57(拙作47手)の余詰順(結果稿で指摘)とほぼ同じ。基本部分は同一手順で条件設定も酷似しており、新作とは呼べないと思う。」

■「その余詰順が中村さん作の作意順とは角筋の処理方法という後半の根本に関わるところで差異がある手順であること」「前半に手を加えて王手回数を19回から20回に増加することに成功したこと」の2点を持って私は新作としての価値があると判断しました。

諏訪冬葉 「昔後手は歩のみの問題をやった記憶があるので96で詰むのはすぐ分かりましたが、38玉に気付かず王手20回に苦勞しました。27手目を手拍子で46玉とした人は私だけではないだろう。」

■玉を上がることを考えるとこの38玉は意外と指しづらいです。

たくぼん 「角のラインを上手く歩合で逃れる順や王手回数での限定順。程よい難易度で楽しめる作品ですね。」

■私も(ヒントを合わせれば)程よい難易度と思ったのですが意外と難しかったようです。

宮谷保可楽 「追加お年玉ヒントが出た途端、スタートからゴールまでほぼ一直線。ただ、後手角の利きがジャマで、玉が5筋近辺を移動するにあたり、55玉～33歩は一考させられた。」

■歩の手のみとあると角で王手をかけるのは気づきにくいですね。

飯尾晃 「33歩に気付き20回の王手を達成。うまく出来ています。」

■19回と20回でかなり達成難度に開きがありません。

渡辺 「第二ヒントを見るまでずっと20連続王手と思い込んでいたので解けませんでした。(第一ヒントも思い込みのために誤読していましたー18連続は20連続の一部だから当然だと…)先手33歩が旨いですね。」

■条件表記がわかりづらかったようで、申し訳ありません。

鈴川優希 「難しかった……。締切前ヒントを見てようやく方針を立てることができました。しかし29手目の3三歩合が全く浮かばず。歩突きに玉移動だけと考えると泥沼にはまっていますね。」

■ええ、まさかの合駒です。先入観に囚われると泥沼。

テイエムガンバ 「27手目に4六玉と動かしてしまう、という罠にはまってしまう、締め切り前ヒントを見るまでどのように開き王手にならないよう指すのかと考えていました。」

■逆に利用してしまうというのが正解でした。盲点だったでしょう。

S. Kimura 「ぎりぎりまで考えてようやく答えが分かりました. ▲3八玉と開き王手が見えませんでした。」

■両方苦労しながらも正解にたどり着いたのは素晴らしいです。

鈴木康夫 「機械検討した結果10万以上の余詰解がありました。私が条件を誤解しているのでしょうか？」

■ご指摘通り余詰でした。「駒打ち含めて後手の同段連続着手禁止」だとどうなるんでしょう。2枚打ち手順はかなり複雑なのでそれでもまだ検討漏れがあるかも……。

はなさかしろう 「もう少し行けそうだけど、行き過ぎてしまうと後が続かない...ほど良いところでバランスを取る感じがなんとも難しい問題でした。」

■余詰指摘でした。33で歩を渡してしまう発想はお見事。

正解：16名

飯尾晃さん S. Kimuraさん 斧間徳子さん
館長さん 鈴川優希さん 鈴木康夫さん 諏訪冬葉さん
たくぼんさん チャンプさん テイエムガンバさん
NAOさん 中村雅哉さん はなさかしろうさん
宮谷保可楽さん ronさん 渡辺さん

5 1-4 上級 渡辺秀行さん作
平成24年新春推理将棋大会 11手×2

A君とB君が新春推理将棋大会の結果について話しています。

A君 「僕は1月1日辰年だから11手目に龍を動かして相手玉を詰めたよ」

B君 「僕は平成24年1月1日ということで24に着手して相手玉を11手で詰めたよ。『同角生』と取った駒を一段目に打った手が決め手になったね。」

A君 「終局図を良く見てごらんよ。駒の向きはさておき、盤面上の大駒と玉の配置が君と僕の将棋でほとんど同じだね」

B君 「そうだね。玉と生角計4枚と龍の配置が同じだ。飛の配置が1マスだけずれているけどね」

さて、A君とB君の将棋の手順は？

<共通条件>

- ・11手で詰み
- ・駒の向き(先手後手)を無視すると、A君とB君の終局図を比べて、玉2枚、生角2枚、飛、龍の配置は飛が1マスずれている以外すべて同じ

<A君の条件>

- ・最終手は龍を動かす

<B君の条件>

- ・最終手は24に着手
- ・先手は『同角生』と取った駒を一段目に打った

出題のことば (担当 DD++)

各局の最終形を予想できるかが勝負どころ。

追加ヒント:

龍の着手でも24の着手でも同じような詰上がりになるということは？ そう、片方は開き王手の詰みです。Bの駒打ちは7手目に飛車。さて9手目にそれが成った後で24に何かを動かして開き王手にするには？ Aはそれを見て同じ形に仕上げてください。こっちは自飛車が成ります。

推理将棋 5 1-4 解答 担当 DD++

<A君の将棋>

▲7六歩 △3二飛 ▲3三角不成 △5二玉
▲2四角不成 △3七飛不成 ▲3八飛 △2七飛不成
▲3一飛成 △3二金 ▲同龍
まで11手。

A君詰上り図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇	科	爵	帝				科	皇	
二				王		龍	皇			
三	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩		
四							角			
五										
六			歩							
七	歩	歩		歩	歩	歩	龍	歩		
八										
九	香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香	

持駒 金銀歩

〈B君の将棋〉

▲7六歩 △3二銀 ▲3三角不成 △4二飛
▲同角不成 △5二玉 ▲3一飛 △5一金左
▲3二飛成 △6二金左 ▲2四角不成
まで11手。

B君詰上り図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇	科	駒	王				科	皇	
二				王	龍					
三	歩	歩	歩	歩	歩			歩	歩	
四								角		
五										
六			歩							
七	歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	
八								飛		
九	香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香	

持駒 銀歩

連立問題です。24龍まで11手の順は51-2の最終形しかないので、その手順ではありえません。つまりAの最終手は24以外の場所で、Bの最終手は龍以外の駒。これで同じような詰上がりには、ということで開き王手に思い至るかが最初の勝負どころです。

龍を動かして開き王手なら相棒は角しかありません。逆に一段目や二段目にいる龍の横利きを通す開き王手なら、そこから24へ移動できる駒は角しかありません。結局どちらにしろ24角が両者共通することは確定で、あとは32龍51玉か32龍52玉か41龍61玉か、といったところが考えられます。

両者を見比べてここまで判断したところで条件の多いBから考えてみましょう。先手の着手は「76歩～何か～同角不成～一段目駒打ち～飛成～24角不成」しかありえません。これで自飛車を成るのは不可能なので、7手目に打ったのは飛車。24へ角が移動することを考えると取った場所は42しかありません。つまり先手は「76歩～33角不成～42同角不成～31飛～32飛成～24角不成」で32龍52玉の詰上りに決定です。

後手の仕事は「42飛（4手目）」「31銀の消去（移動は6手目まで）」「41金の消去」「52玉（6手目まで）」の4つ。当然「32銀～42飛～52玉～金～金」の順ですね。金が2手で動ける範囲で邪魔にならないところをよーく探すと、玉の裏側の62があいていました。これでBは一件落着。

では続いてAですが、こちらは龍の作り方がポイントです。最後に龍を動かしたということですが、奪った飛車を成る場合、龍の手は最短

で何手目に指せるでしょうか。飛車を取れる最短が5手目、それを打てるのが7手目、成れるのが9手目、動かせるのは11手目。つまり飛車を取った後で角を24へ動かす余裕が全くないのです。だからこっちで成るのは自飛車ですね。

ここで終局図比較を考えます。22角は動かしたくありません。そして82飛は28の隣接マスへ行かなくてはなりません。それを考えると、先手角が33歩をかじって24へ、そこを通過して後手飛が37の歩をかじって、さらにそこから先手飛が成るといふシナリオになりそうです。先後両方並べると、「76歩、32飛、33角不成、王手回避、24角不成、37飛不成、飛移動、飛成、何か、32龍」ですね。金銀の処理を考えると4手目にさっさと52玉と上がって9手目31飛成で銀を、10手目32金に11手目同龍で金を消してもらおう形しかありません。後手飛の行き先はもちろん27限定。

連立ならでは解き方に慣れなかった方は苦戦されたかと思いますが、コツさえつかめればそれほど難しくない問題です。いかがだったでしょうか。

それではみなさんの短評をどうぞ。

渡辺（作者） 「調査が足りなくて構想を満たす完全局面一致手順は発見できなかったのですが、ならばということで一致のキーを明示して難易度を下げました。しかし、それが災いしてB君単体で解けてしまうのは残念でした。」

■私も11手で24トドメと龍トドメの組を探してみたんですが、完全一致どころか玉大駒6枚一致もたぶん不可能じゃないかという結論に至りました。B君単体で解けるは解けますが激ムズなので、A君の条件（龍でトドメを刺す）がヒントになってちょうどよかったと思います。

斧間徳子 「B君の将棋の方を先に解いた後、飛車の位置が1マスずれていることを手がかりにA君の将棋を推理しました。おそらく、この順で解くしかないと思う。連立問題はひらめきがないと解けないので難しい。」

■24角が必要なことと最後が合い効かずなことさえ見えていればA君からでも迫れます。もちろんB君からの方が簡単ですが。

N A O 「手段の多いA。構想と最終手の見えないういB。なるほどのマッチングです。」

■比較してみるといろいろな対比が隠されています。

ron 「連立問題もあるんですねー。条件を読み解く際に混乱して大変でした。『玉と生角計4枚』の記述で『ん？、AとBの将棋で玉と角はあわせて8枚だからその内4枚が同じ配置なのかなあ』とか勘違いして。しかしなんとか解答を出せたのでよかったです。解答が出る時は二つの問題がいっぺんに解けることになるため解けた喜びが大きいですね。」

■おっとその解釈は気づきませんでした。「玉と生角全て」とするべきでしたね。あ、でもそれだと馬を作らない条件が抜けるか。うーん。

チャンプ 「2つの将棋の条件を並べて考えてみても共通点(作意)を探ることができなかったのでB君の将棋1つに絞って考えてみた。そして7手目まで一目で思いつき瞬殺。あとは大駒の配置を当てはめてA君の将棋を片付けるというズルイ解き方をしました。個人的に飛車の位置のズレが横じゃなく縦だったことがツボでした。(笑)」

■ズルいどころか正統な解き方なような(笑)

中村雅哉 「大駒配置制約条件がイメージしにくい。無理にツインにした印象で損な感じ。手順はB君の方が面白いので、その単独問題で作るべき素材と思います。」

■大駒条件がイメージしにくいのは確かに惜しいですが、手順の対比性は十分ですし、ツインとして十分な出来でしょう。もちろんB単独でも面白い問題にはなりますが。

たくぼん 「条件が少なめで、2つの順の対比も見事。特に後手41金の動きが逆になるのに感心しました」

■これだけの対比性はなかなか盛り込めませんよね。

宮谷保可楽 「2度目のヒントが出てきたときに、やっと詰み形が見えた。あとは41金をどう処理するか。」

■両者とも41金の処理で一瞬戸惑います(笑)

飯尾晃 「締め切り前ヒントがなければ解けないです。」

■ツインに慣れない方にはちょっと厳しかったですかねえ。

鈴川優希 「同じ終局図で、一方は最終手が開王手という発想が面白いです。成生非限定の多い素材ですが、うまいこと限定されていますね。」

■こういう発想はツインならではですね。

はらたつと 「最初詰め上がりが全く見えずDD++さんの大サービスとも言える最終ヒントでようやく一つわかったらもう片方はすぐでした。」

■いいツインは片方見るともう片方はすぐなんですよ。

テイエムガンバ 「(A君の将棋)飛が1マスずれているというヒントで3八飛か1八飛に飛車があるだろうと予想してどこで特定させるのか、と思いましたが2七飛が正解だったとは……。」

■いい意味で予想を裏切られると面白いですよね。

S.Kimura 「(A)条件の多いB君から考え始めたので、その後に考えたA君は早く解けましたが、△2七飛不成は意外でした。(B)角での開き王手は割と早く気付いたのですが、1段目で詰ませると思ひ込み、悩んでいました。お年玉ヒントが出た辺りで、ようやく2段目で詰ませれば良いと気づき、そのあとは簡単でした。」

■この32龍+33/24/15角という形は実は時々見かける詰上がりだったり。

はなさかしろう 「A君の後手が3筋突破をするのは本線なので、なんとなくこんな感じかな、と。」

■おお、珍しくA君から攻めた方が！

はてるま 「詰みの形を想像できれば推理しやすいですが、同じ詰み形を異なる最終手で表現するという課題を、特殊な条件でまとめあげた技術力はさすがです。」

■しかも龍の作り方が別ときてますからねえ。さすが。

正解：15名

飯尾晃さん S.Kimuraさん 斧間徳子さん
鈴川優希さん たくぼんさん チャンプさん
テイエムガンバさん NAOさん 中村雅哉さん
はてるまさん はなさかしろうさん はら
たっとさん 宮谷保可楽さん ronさん 渡辺
さん

総評

斧間徳子 「平成24年（龍年）に引っ掛けた特集を組めるとはすばらしい。駒に因む干支は龍と馬しかないので、再来年は馬年の特集を組んでください（その後は当分、組めないの・・・）」

■大きな森のどうぶつしょうぎでやれば「卯」「酉」「戌」「亥」もいけますね。どっちにしても次は午ですか。

NAO 「年内に解答いたします。よいお年を。」

■もう年開けてますが、よいお年を、でいいんでしょうか（笑）

ron 「新春推理将棋ということで、こちら1月1日に解答を送ろうと画策していたのですが、間に合わず。それがちょっと悔しい。初級、中級はすぐに解けたので、これはいけるだろうと油断したのが間違いでした。上級問題は長手数問題に連立問題と異色の問題で手強かったです。ただ、その分解き甲斐もあって面白かったです。…あ、そうだ。申し遅れましたが、今年も解答していきたいと思しますので、なにとぞ宜しくお願い致します。まだ挑戦し始めて日が浅いですが、すっかりハマってしまいました。」

■今年も宜しくお願い致します。誰か1月1日解答をするだろうと思っていたら誰もいませんでした、残念。解答にハマったらぜひ次は出題側にも挑戦してみてくださいね。

中村雅哉 「昨年新春問題でも感じましたが、新春問題としては後半2問は難しすぎだと思います。新年の問題はどれも一目見て解けるレベル（今回であれば51-1）を揃えて欲しいです。」

■通例通りの1ヶ月出題なら新春は簡単なのを並べると思うんですが、2ヶ月出題となるとその分だけ長く楽しめるものがあるといいという方もい

らっしゃるんですよね。それでも難しいのは1題でよかったかなという気も少ししていますが。

たくぼん 「今年もよろしくお祈いします。創る方は出来そうもないので解答で頑張ります。」

■今年も宜しくお願い致します。これだけ解けるたくぼんさんならきっと作る方もできるはずですよ。ぜひ挑戦してみてください。

宮谷保可楽 「1ヶ月半、思いっきり悩ませていただきました。最後はいつものように、追加ヒントに助けられました。感謝です。今年もよろしくお祈いいたします。」

■今年も宜しくお願い致します。追加ヒントは、助けにならなきゃヒントじゃないですから（笑）

変寝夢 「本年もよろしくお祈いします。」

■こちらこそ宜しくお願い致します。

渡辺 「他は年末に出来ていたのですが3番の条件誤読でずっと悩んでいました。」

■条件整理に若干失敗しましたか。反省。

鈴川優希 「今回は3番に大苦戦。他の3作は出題から2・3日で解けたというのに……。やはり長編は苦手です。それでは本年もよろしくお祈いします。」

■今年も宜しくお願い致します。長編特有のコツを掴まないとやっぱり難しいですか。

テイエムガンバ 「久々の全問解答、はうれいのですが、まだ一つの解き方にこだわりすぎてしまい、泥沼にはまること多いみたいです。もう少し柔軟さを持つようにしないと。」

■思い込みはわかっているけどやってしまうから怖い。

はなさかしろう 「正月まで待てずに解いてしまったのですがすぐ送るのも味消しかな... と思っていたらもう締め切りの夜でした。」

■すぐに送ってくださったら51-3の余詰修正できたのに（泣）

Fairy of the Forest #30結果発表

- 2011年11月20日：課題発表：(協力詰) 双方不成
- 2012年01月15日：投稿締切
- 2012年01月20日：出題
- 2012年02月15日：解答締切
- 2012年02月20日：結果発表

■ 結果発表

【今回の解答者】

- (敬称略、到着順、○は全題正解者)
 ○神無七郎、○変寝夢、○小峰耕希、
 ○たくぼん、○占魚亭、○隅の老人B

■ 30-01 たくぼん 協力詰5手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
								飛	二
					銀		王		三
							歩	ス	四
									五
									六
			馬	角	王	香	飛		七
									八
									九

持駒なし

23 歩生 24 飛生 22 銀生 23 玉 33 香成
 まで 5手

作者—もう1種位入りそうでしたね。

小峰—受方の角も不成で動かせれば尚良かったのかもしれませんが。

☆具体的には考えていませんが、角生も入りそうですね。

占魚亭—第一感は全着手不成でした。

隅の老人B—たったの5手だが、不成は3回。上手い、上手い、これで残りを解く気になりました。

☆ちょっとでも解く気にさせるのは大事ですよ。そういう意味で、本作は絶好でした。

変寝夢—なぜ飛生？と思ったが双玉の意味と同時に解決した。

七郎—不成の意味付けが全部違いますね。①王手を掛けないため、②利きを削減するため、③王手を掛けるため。

☆普通詰だと、①の意味付けが難しいのでしょうか。

■ 30-02 神無八級 協力詰7手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
							銀		二
									三
						馬	歩	王	四
						角			五
									六
								馬	七
									八
									九

持駒なし

23 銀生 33 玉 43 歩生 44 金 同角 同角生 34 金
 まで 7手

小峰—今回の出題作の中では一番入門者向けという気がする。

☆フェアリー—素人が作っていますからね…。

占魚亭—空き王手さえ出来れば、後は簡単。

☆その開王手の仕方が…。

七郎—前局と似ている…のは同じ課題だから仕方ありませんか。簡潔にできているのが長所。

変寝夢—きれいな捌き。エチュードのような作品—。

たくぼん—分かりやすく3種生。金合はお見事。

隅の老人B—最後の角生もお気に入り巧手です。

☆序の2手の逆算については、太郎氏の協力を仰ぎました。54 銀は、3手目24 玉、46 角、35 飛、同角、33 玉、43 飛までの余詰を防いでいます。上記紛れ順中35 飛の所、35 金、同角、25 玉、26 金の余詰に17 角が働いているだけに1枚追加するのは惜しい気もするのですが、やむを得ません。

■ 30-03 変寝夢 協力詰 7手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

								王	一
						王		香	二
								香	三
						角			四
						桂			五
									六
									七
									八
角								飛	九

持駒 なし

21 香成 同飛生 12 角成 同飛生 22 銀 同角生
23 桂生 まで 7手

作者ー遠けりゃいいってもんでしょう (笑)

七郎ー長距離不成に挑戦? 駒の移動距離を「玉なら最短何手で行けるか」を基準に測ると、不成の手の距離の合計は $8 + 7 + 7 + 2 = 24$ 。きっと7手では最大でしょう。

☆双方不成という条件から受方の配置も制限されてしまいますが、最遠移動にしたのは作者の遊び心でしょう。

小峰ータイミング的にF短コン 02-01の七郎作を連想してしまう(目下結果稿執筆に苦戦中…)

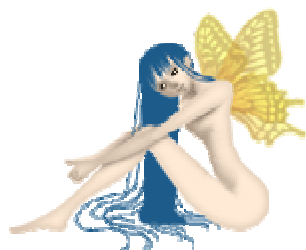
☆結果稿が楽しみです。

たくぼんー5手目も成生選択があれば全手順成生の凄順になったたですね。

占魚亭ー正月に同様の狙いの作品を作ったのですが、納得のいく出来ではなかったので投稿しませんでした。勉強になりました。

隅の老人Bー詰上がり図が妙、そういう事にしておこう。

☆理屈は後から?



■ 30-04 小林看空 協力詰 19手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
						角	香		二
				銀	歩		飛		三
			金		香	銀			四
			科	香	香				五
		香	香	王	香	香	歩		六
龍		香	科	科	香				七
		桂		王					八
						馬			九

持駒 金2

57 馬 同桂生 68 桂 同銀生 67 龍 同香生
48 歩 同歩生 47 金 同香生 66 金 46 玉
56 金 35 玉 25 飛生 33 玉 23 角生 33 玉
42 銀生 まで 19手

作者ー収束、銀の生が入ることに気がつきました。これで6種生8度ものになります。銀と香車の生がおまけです。

☆作者は 66 金~56 金の遊びが不満で、2手短縮もしくは生1回追加を狙っていましたが、果たせずこの図となりました。

七郎ーこれは第7回で発表された「プレアデス」(13手6種不成)の発展形ですね。双方合わせて8回の不成が登場する高密度手順。今回のF O Fで一番の収穫。

☆「プレアデス」は受方6種不成の最短手数作です。ここの07-09をご参照ください。
<http://www.geocities.jp/qgfairy/07.htm>

小峰ー6種8回かな? 既に「プレアデス」シリーズがあるせいで、不成系のテーマだと実際は結構凄い事をやってもインパクトが薄れる気がしないでもありません。

☆「プレアデスII」は(攻方)六種不成の最短手数作(11手)です。とりあえず知りたい人はここの3-8をご覧ください。

<http://homepage1.nifty.com/kamina/pub/shin-taizen/shin-taizen-excerpt.pdf>
詳しくは、『新約・神話大全』をご参照願います。

変寝夢ーこんな配置でよく余詰がでないもんだと思う。不成8回だがもっとしてたようなイメージ。

たくぼんー後手5連続生のあとに先手3連続生。

合わせて6種8生ですか。楽しめました。

占魚亭一玉の移動ルートを作る。あっけない幕切れ。

隅の老人B一解答を書き終えて、ようやく6種不成に気付く。協力詰なら何でも出来る？

☆作者の熟練の技巧を發揮した快作でした。

■ 30-05 たくぼん 協力詰 39手

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇	角								
二	飛	皇	飛	玉	皇	桂	飛	桂	玉	
三										
四				飛	桂	飛	飛	玉	玉	
五					飛					
六		飛			皇					
七								飛		
八					金	歩		飛	王	
九	王	飛		桂		と				

持駒 香

19香 29玉 39と 19玉 29と 同玉
 77桂 89角生 92角生 18玉 19歩 17玉
 18歩 16玉 17歩 15玉 16歩 14玉
 15歩 13玉 14歩 23玉 13歩成 33玉
 23と 43玉 33と 53玉 43と 63玉
 53と 73玉 85桂 同香 63と 82玉
 73と 93玉 83角成 まで 39手

☆伏線物に仕上げ、手数を延ばした異色作。個人的には好みます。

作者一付け焼刃ではこれが限界か…。7手目の桂の跳ねる位置の選択ですが、まあ77へ行きますよね。

☆一見して駒数が多い気もしますが、個々の意味を考えると、苦心の配置です。解いていない人も並べてほしいと思います。

七郎一「伏線」がいくつかありますが、全部軽いものなので「不苦戦」でした。こういう身構えなくても良い作品もフェアリーには必要ですね。

☆「不苦戦」とはうまい…。しかし、簡単なようでも悩んだ人もいました。

占魚亭一収束に1日考えました(57桂ばかり考えていた)。

変寝夢一いや一なんで 85桂に対しての同香が見えないだろう。何とか解けました。

小峰一久々の「ちょっとだけ謎」シリーズでしょうか。そんなに難しいところはない。

☆こんなシリーズがあったとは、寡聞にして知りませんでした。復活を期待します。

隅の老人B一双方不成と判っていると、成れる処でも、先ずは成りません。それでも収束に不成の効果が判明して、成る程ね。

☆そうですね。課題自体がヒントにもなりますが、ちょっとしたヒネリがあると解いた喜びも増しますよね。

【総評】

七郎一作品で貢献できなかったのが、解答で参加します。(前にもこんなこと書きましたね。)ちょうど、「第35回神無一族の氾濫」の結果稿を書き終わったところなので、その解放感に浸りつつ、解図を行ったところです。

☆作品の方もぜひお願いします。

変寝夢一このテーマは自由度があるだけに作りにくいと思います。

☆「自由度がある」から？「ないから」が普通ですよ？

小峰一創作も試みたのですが結局何も出来ませんでした。作風的に奇抜な手順を狙い過ぎるのが良くないのだろうが…。

☆この課題だと、「奇抜」なのは無理でしたか。次を期待しています。

たくぼん一課題から解くのは簡単なのでたくさんの方が解図があればいいですね。

☆課題自体が解図のヒントになるので取っ付きやすそうでしたがね。結果は…。

隅の老人B一2月16日のお昼、メールを覗く。酒井さんより「F O F #30」の解答締め切りが、未だ間に合うとのメール来信。忘れていました、慌てての解図。難問はなく、半日ほどで解図、早速の解答です。

☆とりあえずセーフで、よかったです。

Fairy of the Forest #31課題発表

- 2012年02月20日：課題発表：(協力詰) 回転 (ルントラウフ)
- 2012年04月15日：投稿締切
- 2012年04月20日：出題
- 2012年05月15日：解答締切
- 2012年05月20日：結果発表

■ 課題発表

割とありふれていますが、「回転」とします。ドイツ語だと「ルントラウフ」というのかな。回転する駒は攻方受方、問いません。また(可能ならば)何回転しても結構です。奇抜な作品を期待しています。

(投稿先)
→酒井博久 (sakai8kyuu@hotmail.com)



ネコネコ鮮の紹介 解答発表

たくぼん

前号で掲載されました「ネコネコ鮮の紹介」で出題された作品の解答発表をします。解答者は15日の締切時点では0名でしたが日記でのお願いにより3名の方より送っていただきました。感謝感謝です。

【解答者 (カッコ内は正解数)】
nmkmt(1)、soga(4)、もず(5)

【ネコネコ鮮】

敵味方を問わず、駒がタテにつながっているとき、上からn番目の駒は下からn番目の駒の性能になる。

(4) h#3 nekoneko

(ネコ鮮ばか詰3手)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						と			一
				歩	王				二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 桂

41 桂 43 銀 32 桂成 迄 3手
詰上図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						と			一
				歩	王	圭			二
				爵					三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

★解答者がしばらくいなかったのでも私も考えてみましたが縦に並ぶと利きが混乱して暗算では無理だと感じました。対面+背面+安南+安北の

多階層で先後に関係なくはかなりややこしい。解答者は大変だと思います。本作も3手とは言え41桂~43銀は見えにくい順でした。

nmkmt

結構時間かかりましたし、これで詰んでいるのか不安なくらいです。余詰検証が大変そうなルールですね。

soga

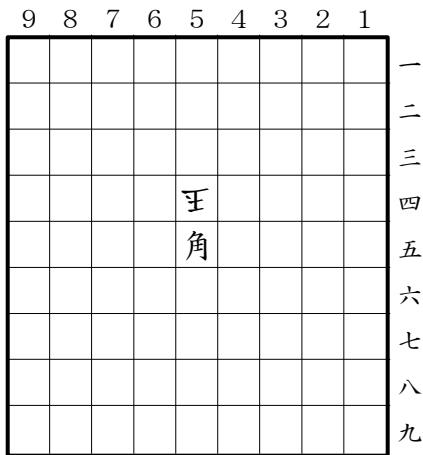
最初は41桂を52に効かせるつもりで銀を打ったのですが、運よく捕まっていました。取れないんですねこれ。

もず

たったの3手でもかなり苦労します。41に桂を打てることを忘れていました。

(5) h#4 (受先) nekoneko 2sol.

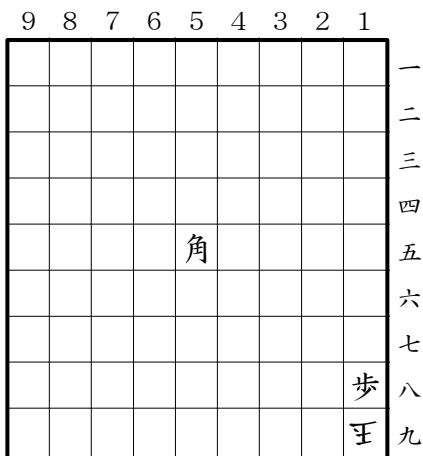
(初手鮮ばか詰・受先4手、2解)



持駒 歩

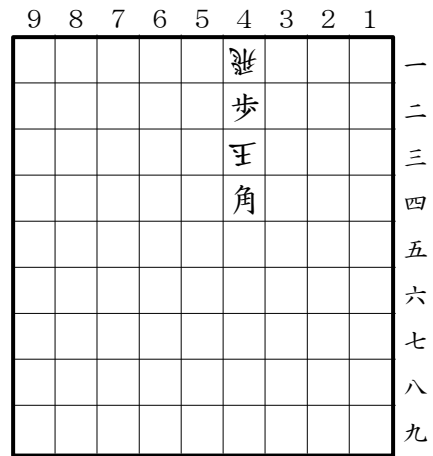
解1: 18玉 54歩 19玉 18歩 迄 4手
解2: 43玉 42歩 41飛 44角 迄 4手

解1: 詰上図



持駒 なし

解2: 詰上図



持駒 なし

★受先の2解問題。初手53桂や角では詰まないがとりあえずは読まされる。1解は18玉に54歩と安南攻めで19玉に18歩。形は両王手であるが55角の利きは詰上りには関係ない。ややこしいのは2解目。問題の構成上2手目は歩打となるのだが42歩とお尻から打つ手は慣れないと見えにくいだろう。詰上りもこれ詰んでるの?という感じだが44角は飛の利き42歩は玉の利きと両王手となっている。44玉と取るとその瞬間42歩が飛の利きとなるためこれで詰上りとなる。

soga

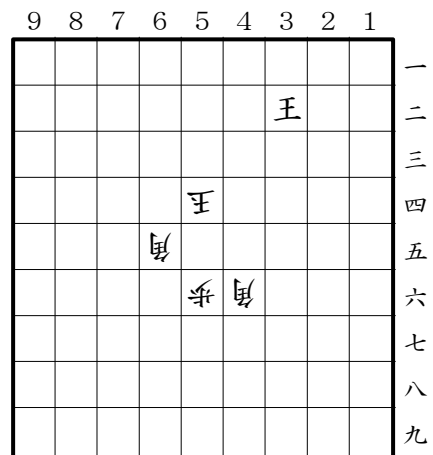
18玉の方の解は早めに見つけることができたのですが、43玉の方は飛車打ちに思い至らず数時間フリーズしてしまいました。

もず

18歩までの方の解を見つけるのに時間がかかりました。両王手で詰ます形に慣れていないようです。

(6) h#5 nekoneko

(初手鮮ばか詰 5手)



持駒 桂2

45桂 47飛 44桂打 55玉 64桂 迄 5手

詰上図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							王		一
									二
			桂						三
			馬	王	桂				四
				歩	馬				五
					飛				六
									七
									八
									九

持駒 なし

★ 47 飛～44 桂打～64 桂の順はたった5手でもかなりの難手順。正解は入らなかった。

(7) hs#4 nekoneko 2sol.

(ネネ鮮ばか自殺詰 4手 2解)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							王		一
王						歩			二
						桂	駒		三
	と								四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 角桂

解1: 81 角 82 飛 85 桂 81 玉 迄 4手

解2: 93 桂 94 飛 91 角 61 飛 迄 4手

解1: 詰上図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
	王						王		一
	飛					歩			二
						桂	駒		三
	と								四
	桂								五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

解2: 詰上図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
角			飛				王		一
王						歩			二
桂						桂	駒		三
	と								四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

★1 段飛を目指すしかなさそうだが 82 飛を発生させて安北型で詰める解1が解き難い。解2は私も解けたが解1はギブアップ。なお詰上り図で32歩は桂の利きなので31歩成とは出来ない。

もず

飛で直接詰ます手ばかり考えていたため、81玉までの方の手順が盲点でした。

(8) hs#4 nekoneko

(ネネ鮮ばか自殺詰 4手)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
王								王	一
							駒		二
			と	飛					三
	龍	馬							四
									五
									六
									七
									八
							角		九

持駒 なし

96 龍 93 桂 92 と 94 飛 迄 4手

★この作品は詰上りを見て頂こう。94 飛で11玉が詰んでいる?? 9筋にタテに4つ並んでいるので91玉は飛の利き。92とは桂の利きとなっている。95 龍という手もあるが91玉の利きが龍になるだけで役に立たない。初手95 龍とやると最後92とが飛の利きになり失敗する。

soga

龍そっぽよりも94 飛で詰んでいることに驚き。

もず

94 龍を読み、95 龍を読み、最後に 96 龍にたどりつきました。龍が駒の柱に触れると利きが変わってうまくいかなくなるというのが、複雑で読みにくいところだと思います。

詰上図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
王								王	一
と									二
科								銀	三
飛									四
		角							五
龍									六
									七
									八
								角	九

持駒 なし

(9) hs#5 (受先) nekoneko 2sol.
(ネコ鮮ばか詰・受先 5手、2解)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								飛	一
								王	二
									三
								桂	四
									五
		桂							六
									七
									八
							と	王	九

持駒 角

解1: 18角 73角 74桂 72王 73玉 迄 5手
解2: 14飛 15角 23飛 26角 13金 迄 5手

★本作も正解が入らなかった。私も全く分からず。解1は18角と打ち玉を角の利きに変えてからの73角、74桂、72王の3手は驚愕の順。まさか先手と後手の玉が7筋に集結するとは誰も思うまい。詰上り72欧は桂の利きなので動けない。(71飛もダメ)。解2はまだ解きやすいかもしれないが王手と中空に打つ14飛を見つけるのも大抵の事ではないと感じる。

解1 詰上図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								飛	一
		王							二
		王							三
		科							四
								桂	五
		桂							六
									七
								銀	八
							と		九

持駒 なし

解2 詰上図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								飛	一
								王	二
								科	三
									四
								桂	五
		桂						角	六
									七
									八
							と	王	九

持駒 なし

(10) hs#4 nekoneko 2sol.
(ネコ鮮ばか自殺詰 4手 2解)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
角								飛	一
								王	二
									三
									四
								桂	五
									六
									七
									八
							王		九

持駒 角

解1: 83角 84桂 82王 83桂 迄 4手
解2: 18角 19桂 17王 18玉 迄 4手

★この作品も正解者0。解1の遠くに桂を発生させてそこへ王を飛ばすという手順になかなか辿り着けない。(9)と同様の順であり手筋といえ

るのかもしれない。解2は先手玉の利きを桂にする為19桂を発生させる。最後19角と取っても防げないので詰上りだ。(9)の詰上りにもあるので王玉がタテに並ぶのも覚えておくべき形かもしれない。

解1 詰上図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
角								飛	一
	王								二
	料								三
									四
							桂		五
									六
									七
									八
								王	九

持駒なし

解2 詰上図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
角								飛	一
									二
									三
									四
							桂		五
									六
								王	七
								王	八
								料	九

持駒なし

(11) h#7 nekoneko

(初初鮮ばか詰 7手)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				飛					一
				料					二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
				王					九

持駒 香2

58香 57金 56香 55飛 57香上 58玉 59金
迄 7手

詰上図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				飛					一
				料					二
									三
				飛					四
				香					五
				香					六
				王					七
				金					八
									九

持駒なし

★初手 58香しかないので考えやすかったか2名の方が正解を入れられました。初手 58香は玉の利き。2手目 57金で 58香に戻して 56香で 58香は金の利きに…。55飛で再び香に…。実にややこしい。57香上は飛の利きで王手！58玉と近づくのがこのルール特有の防手。ラストは 59金と打ちますが、この瞬間、玉は香の利きになり5筋以外には逃げられません。59金を同玉と取れるって？いやいや取った瞬間 57香が飛の利きに変わります。この形も覚えておいて損はなさそうですね。

soga

詰上がりで玉が香車になっていることに気付かず、ラスト2手で泥沼化。5筋から一歩も出ないのが面白いです。

もず

58玉とできることになかなか気づきませんでした。初見で、駒柱が立つのかと一瞬思いましたが、この形では無理ですね。

【総評】

もず

結構な時間をかけて考えたのですが、全体に非常に苦労し、あっさり解けた作品が一つもありませんでした。特に持駒のある相手玉を詰ますときは、詰み形が普通と全く異なるので、1手詰の形をたくさん頭に入れておかないと厳しそうです。

ネコ鮮の紹介

by小林看空

前回ネコネコ鮮を紹介しましたが、今回はネコ鮮の紹介です。初出はカピタン第2号(昭和51年8月1日号)ですが、ネコネコ鮮同様、発案は、1972年(昭和47年)京都大学将棋部(当時のメンバーは加藤徹氏、蒲池克弘氏ら)ということです。さて、ルールです。

ネコ鮮ルール

味方の駒がタテにつながっているとき、上からn番目の駒は下からn番目の駒の性能になる。ネコネコ鮮ルールは、敵味方を問わず、でしたが、ネコ鮮は穏やかに(?)味方の駒のみです。一番上の駒と一番下の駒の性能が入れ替わるのはネコネコ鮮と同じです。途中で敵の駒がはさまると、味方の駒がつながっていることにならないので、ネコ鮮の作用はそこでとぎれることになります。それでは例題をみてみましょう。

注

chess に倣って、

ばか詰 3手 ⇒ h#3

ばか詰 5手 ⇒ h#5

ばか自殺詰 6手 ⇒ hs#6

ばかスタイルメイト詰 3手 ⇒ h=3

ばか自殺スタイルメイト詰 6手 ⇒ hs=6

2解 ⇒ 2sol.

と書くことにします。これの方が簡素です。

chess は条件を下に書くので、そうします。

(1)例題

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
								王	七
									八
									九

持駒 金香

h#3 neko

持駒は2枚で、3手詰なので、駒を打って打ってということになります。

初手は平凡に 28 金に 19 玉と入って、そこで 29 香で詰め上がり。

つまり、香を金に変えるネコ鮮錬金術でした。

28 金 19 玉 29 香まで3手 (詰め上がり図=省略)

(2) 例題

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
王									一
	銀								二
									三
									四
									五
									六
									七
							王		八
									九

持駒 角

h#4 (受先) neko

受先ですが、詰め方の持駒は角1枚なので、駒を打つ手は考えられず、玉か銀を動かすしかないところですが。

まず、93 銀!そして 29 角打と 28 王で王手!

92 玉とよろけます。(このとき 29 角は王の性能なので 92 角とはいけません)

そこで 91 王と飛び込んで、両王手の詰め上がり!

ご確認ください。(92 玉は現在、銀の性能なので詰め上がりです。)

例題(2)の詰め上がり図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
王									一
王									二
銀									三
									四
									五
									六
									七
									八
							角		九

持駒 なし

neko

93 銀 29 角 92 玉 91 王まで 4 手
 このようにネコ鮮は王の活躍する場面が多いです。

(3)例題

9	8	7	6	5	4	3	2	1		
							桂	飛	角	一
							桂	歩	桂	二
	王									三
										四
										五
									歩	六
										七
							と		王	八
										九

持駒 香4

hs=12 neko

今度はスタイルメイトがらみです。(ネコ鮮はスタイルメイトが作品化しやすいのです。)

83 の玉に王手をかけて 18 王方がスタイルメイトします。作意をみてみましょう。

23 香 74 玉 24 香打 65 玉 25 香打 56 玉

26 香打 46 角 47 と同玉 27 王 37 銀まで 12 手

スタイルメイト詰ですので、駒を余らせないように最初は打っていきます。初手 23 香は 21 飛の性能なので王手です。(12 桂=現在角の性能、の動きを封じる意味もあります)

同様に 3 手目 24 香も王手! 5 手目 25 香、7 手目 26 香も王手! 11 手目 27 王も王手!

ここで銀合(角は売れ切れ)してスタイルメイトです。

例題(3)の詰め上がり図

9	8	7	6	5	4	3	2	1		
							桂	飛	角	一
							桂	歩	桂	二
								香		三
								香		四
								香		五
								香	歩	六
							王	王	王	七
										八
										九

持駒 なし

neko

27 玉は飛車の性能ですが、17,28,29 の地点に玉方の駒が利いていることを確認ください。また、他の駒も動けるところがないことを確認ください。

つまり、スタイルメイトの詰め上がりです。

=====

それでは作品を。

解答はたくぼんさんのところへお願いします。

(4)

9	8	7	6	5	4	3	2	1		
										一
										二
										三
										四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 飛

h#5 neko

(5)

9	8	7	6	5	4	3	2	1		
										一
										二
										三
										四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 桂

h#7 neko

(6)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
		歩					飛		二
							王		三
									四
					角				五
					王				六
									七
									八
									九

持駒 なし

hs=6 neko

(7)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
王								王	八
								飛	九

持駒 角

hs#5 (受先) neko 2sol.

(8)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
歩									八
									九
					王		王		

持駒 飛2歩

hs=8 neko

=====

では。

解答送付先：

たくぼん：takuji@dokidoki.ne.jp

解答締切：2012年3月15日（木）

★

「第36回神無一族の氾濫」投稿作品募集

「第36回神無一族の氾濫」へのゲスト参加を募ります。

今回は「多重王手を含むフェアリー作品」を募集します。「多重王手」は「両王手」を一般化した概念です。普通詰将棋では一度に王手を掛けられる駒の枚数は2枚ですが、フェアリーでは同時に3枚以上の駒が王手を掛ける「多重王手」が可能です。また、普通詰将棋ではあり得ない駒の組合せによる両王手も可能です。多重王手を回避する手段も逃げる手とは限りません。

今回はそんな「多重王手」を手順中に含むフェアリー作品を募集します。

作品要件	多重王手を含むフェアリー作品
募集締切	2012年4月15日（日）
募集作品数	4 (+α)
送り先	神無七郎(janacek789@ybb.ne.jp) 上記宛先へ E-mail でお送りください。
備考	1人何作でも投稿可 採否は4月22日までに通知

WFP43 号に玉の全格巡りの話しが載っています。フェアリーといえども割りと自然な条件での実現は難しそうですね。で、ちょうど別方向で考えていたことがあるので紹介します。

マドラシばか自殺スタイルメイト 88手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

								王	一
								香	二
							香		三
						香			四
				香					五
			香						六
		香							七
	香								八
香									九

攻方持駒香37

受方持駒∞

- 19香 18香 17香 16香 15香 14香 13香 12香 21香成 同玉
 - 29香 28香 27香 26香 25香 24香 23香 22香 31香成 同玉
 - 39香 38香 37香 36香 35香 34香 33香 32香 41香成 同玉
 - 49香 48香 47香 46香 45香 44香 43香 42香 51香成 同玉
 - 59香 58香 57香 56香 55香 54香 53香 52香 61香成 同玉
 - 69香 68香 67香 66香 65香 64香 63香 62香 71香成 同玉
 - 79香 78香 77香 76香 75香 74香 73香 72香 81香成 同玉
 - 89香 88香 87香 86香 85香 84香 83香 82香 91香成 同玉
 - 99香 98香 97香 96香 95香 94香 93香 92香 まで 88手
- 駒余り 香

達成図

9 8 7 6 5 4 3 2 1

王									一
皇	皇	皇	皇	皇	皇	皇	皇	皇	二
香	香	香	香	香	香	香	香	香	三
皇	皇	皇	皇	皇	皇	皇	皇	皇	四
香	香	香	香	香	香	香	香	香	五
皇	皇	皇	皇	皇	皇	皇	皇	皇	六
香	香	香	香	香	香	香	香	香	七
皇	皇	皇	皇	皇	皇	皇	皇	皇	八
香	香	香	香	香	香	香	香	香	九

攻方持駒香

受方持駒∞

それは使用駒全部併せての全格巡りです。左図はその一例。どうでしょうか。なお、初形では全枡未通過ということにしておかないと、初形で全枡に駒配置するというつまらない解が出てきちゃいますね。そうすると、この図は 11 不通過ということになります。まあ、修正は容易だし、この図が最善とはとても思えないので、このままということで。

しかし、ちょっとハードル下げ過ぎでしょうかね。もしかしたら、伝統詰将棋でも実現可能でしょうか。

ついでなので、別件でもうひとつ。

それは、極めて多くの両王手での詰が生じる局面を求めるというもの。

安北ばか詰 1手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

				銀	金	角	金	銀	一
				と		王		と	二
				と	飛		飛	銀	三
					桂	桂	桂		四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 角 金 銀

33 で、飛右、飛右成、飛左、飛左成で、4 種。

22 で、飛、飛成、角打、角、角成、金打、金、銀打、銀上、銀上成、銀引、銀引成、桂成で、合計 17 種。

42 で、飛、飛成、角打、角、角成、金打、金、銀打、銀、銀成、桂成、とで、合計 29 種。

これは何を隠そう、f m の不具合対応の過程で生まれた局面です。私も若干関わっていますが、次郎さん作。結構極限的な局面のような気がします。はたして、自然な条件で、これ以上の局面は作れるのでしょうか。

解答募集締切一覧

ネットでのフェアリー詰将棋の解答募集締切一覧です。締切日が早いもの順です。解答先は各々異なりますのでお間違えにないように。

3月15日(木)

第39、40回WFP作品展

フェアリー作品 10作

推理将棋 1作

ネコ鮮の紹介

ネコネコ鮮作品 5作

4月15日(日)

第40回WFP作品展

推理将棋 1作

投稿募集

Fairy of the Forest #31

投稿締切：2012年4月15日

課題：（協力詰）回転（ルントラウフ）

（詳細はP47をご覧ください）

第36神無一族の氾濫 ゲスト参加

投稿締切：2012年4月15日

課題：多重王手を含むフェアリー作品

（詳細はP54をご覧ください）

【あとがき】

12月号で発表した年賀詰作品展の拙作（盤面一杯龍を並べたやつです。図面手順はは解答発表1月号をご覧ください）慌てて創った為、どの龍が不要なのかを検討できないまま発表してしまいました。インパクトはそれはそれであったと思いますが、創作態度としてはちょっと褒められない。しかしそれを一つずつ検討したら私の非力なPCではどれだけ時間が掛かるかわかりませんでした。

そんな中、なんと七郎さんが調べてくれました。本当にありがとうございます。とりあえず確認できた不要龍は10枚（図参照）だそうです。何だか盤面一杯もなかなかのインパクトでしたが、この対称形も味がある模様です。まあ誰も解けない作品を年賀詰で出してはいけませんでした。来年はもっと皆さんが楽しめるような作品をと思っております。今回解は載せませんのでまだチャレンジしていない方はしてみてください。

禁欲協力詰 31手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
	龍	龍	龍	龍	龍	龍	龍		一
龍	龍	龍	龍	龍	龍	龍	龍	龍	二
龍	龍	龍	龍		龍	龍	龍	龍	三
龍	龍	龍	龍		龍	龍	龍	龍	四
	龍	龍	龍	王	龍	龍	龍		五
龍	龍	龍	龍	龍	龍	龍	龍	龍	六
龍	龍	龍	龍	龍	龍	龍	龍	龍	七
龍	龍	龍	龍	龍	龍	龍	龍	龍	八
	龍			龍			龍		九

持駒 飛

たくぼん

2012年 第44号

Web Fairy Paradise

非売品

平成二十四年二月号

平成二十四年二月廿日発行

発行所 愛媛県新居浜市

発行兼編集人 須川卓二

発行所 Web Fairy Paradise 編集部

問合先 takuji@dokidoki.ne.jp